

リアホナ

教会機関誌が
皆さんのもとに届くまで、
38ページ

アイリング管長とワークドルフ管長を
紹介します, 6, 14ページ

40キロを歩いて教会へ, 22ページ

国々を導く神が
あなたを導いておられます, 30ページ

9歳の宣教師, 「フレンド」12ページ



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ウークトドルフ、
十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バ
ロード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、
ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリ
ストファーンソン

編集長:ジェイ・E・ジェンセン
顧問:ゲラリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダグ
ラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バレル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:クリスティーン・バンズ、リンダ・ステール・クーパー、デビッド・
A・エドワーズ、ラリー・ポーター・ガント、キャリー・カステン、ジェニ
ファー・マディー、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデ
カーク、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、ジョシュア・J・
パーキー、キンバリー・リード、リチャード・M・ロム・ニコン・L・サル、
ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル

主任秘書:ローレル・トイスチャー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネバカー・オース、ハ
ワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジ
ナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョン
セン、デニス・カービー、ギニー・J・ニコルソン、ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレイグ・K・セジウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●[リアホナ]のお申し込み、配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・
キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

[リアホナ] (モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アラビア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウク
ライ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア
語、ギリシャ語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェー
デン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本
語、ルウエー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒズラマ語、ヒンディー語、フィジー
語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポ
ルトガル語、マニラ語、マダガスカル語、モンゴル語、ロトピア語、リトアニア
語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

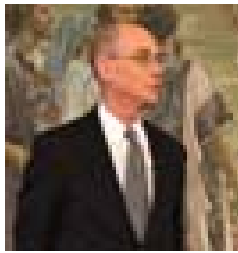
©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本
[リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい
て臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている
場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
[リアホナ]は、教会のホームページ www.lds.org (英語)に様々な言語で
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク
リックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

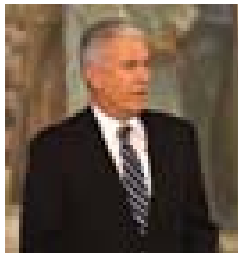
July 2008 no. 7 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is
published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East
North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per
year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt
Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include
address label from a recent issue; old and new address must be included.
Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at
address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders
(Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post
Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

リアホナ2008年7月号



6 神に召された人



14 家族の人、信仰の人、
予任された人



38
教会機関誌ができるまで

一 般

- 2 大管長会メッセージ——預言者の声を心に留める
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 6 ヘンリー・B・アイリング管長——神に召された人
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 14 ディーター・F・ウークトドルフ管長——
家族の人、信仰の人、予任された人
ラッセル・M・ネルソン長老
- 22 歩みに信仰を……心に歌を ディアドラ・M・ポールセン
- 25 家庭訪問メッセージ——
すべての人は、神の形に創造されている
- 38 教会機関誌ができるまで
ドライバーを持ったサマリヤ人 ハイディ・バートル
主の翼の陰を ポール・B・ハッチ
少年のレプタ ナタリー・ロス
イエスはほんとうにアメリカ大陸を訪れたのですか?
カルロス・レネ・ロメロ
- 44 末日聖徒の声
- 48 読者からの便り

家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくク
ラスでのレッスンにおいても
役立てることができます。

「幸せな家庭のレシピ」

26ページ——ロンダール家
の話をしなが、彼らの家庭
を幸せにするレシピには
どんなものがあるかを
探します。家庭の夕べ
の前に特別な料理を作ることを提案
してみてください。一緒に食事を作り
ながら、おいしい食事にするために
一つ一つの材料がどのように役立つ
ているかを話し合います。それは、幸
せな家庭を築くうえで、家族の一人一
人が必要であるということと同じです。



記事を読みます。ロンダール家の
例を参考にしながら、家庭の夕べで
何をしたいか家族に尋ねてくださ
い。次回の家庭の夕べの割り
当てを決めます。ゲームの
ときに「目隠し指揮者」をし
てもいいでしょう。

**「導きを与える神の
御手」** 30ページ——

まず、ポール長老の祈りについ
ての経験を幾つか紹介します。「人
生での導き」の項にある、ポール長
老の約束を声に出して読みます。次
に、アルマ34:18-26を読み、祈り
についてアミュレクはゾーラム人に何
を教えたかを話し合います。祈りに



30 導きを与える神の御手



26 幸せな家庭のレシピ

青少年

- 26 幸せな家庭のレシピ ポール・バンデンバーク
- 30 導きを与える神の御手 ウォルフガング・H・ポール長老
- 34 今がその時 ジャネッサ・クロワード

表紙

写真加工/ジョン・ルーク

「フレンド」表紙

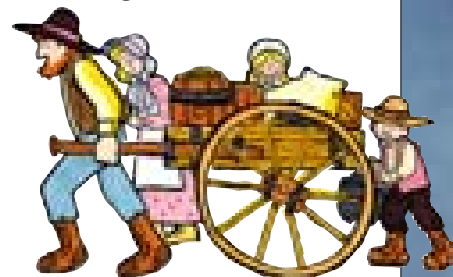
「スイートウォーター」川を渡る」

デビッド・コッホ画、複写は禁じられています



F12 一緒に
初等協会に行かない？

F8 手車を作りましょう



フレンド

- F2 預言者の声——福音の賜物
ヘンリー・B・アイリング管長
- F4 分かち合いの時間——
わたしは今すぐせんきょうしになれます
リンダ・クリステンセン
- F6 よげんしゃジョセフ・スミスのしょうがいから——
オハイオにうつったジョセフ
- F8 手車を作りましょう
- F10 小さな友達へ——神のむすことむすめ
ポール・K・ジブラウスキー長老
- F12 一緒に初等協会に行かない？ レナー・ハーディング
- F15 イエスのように——家族でする断食
レジナ・モレイラ・モンテイロ
- F16 色をぬりましょう

今月号のどこかに隠れている
インドネシア語のCTRリングを捜しながら、
福音を分かち合うことで、
どのように正義を選ぶことができるかを
考えてみましょう。



よって助けられた経験を家族に話してもらいましょう。

「今がその時」34ページ——サーシャがモルモン書を読んだ3つの方法について紹介します。3つ目の読み方は、最初の2つとどのように違ったのでしょうか。モロナイ10：4-5を読み、モロナイの約束について話し合みましょう。

「一緒に初等協会に行かない？」F12ページ——初等協会のどのようところが好きか子供たちと話し合います。家族と一緒に記事の内容を短くまとめてください。初等協会に招待したい人がいるか家族に尋ねます。初等協会または初等協会の活動にだ

れかを招待する目標を立てましょう。

「家族でする断食」F15ページ——記事を読み、家族と「親切のビン」を始めるかどうか検討してください。レオナルドとマリアナが断食し犠牲を払ったおかげで、二人とほかの人がどのように祝福されたかを話し合います。特別な祝福を必要としている人のために家族で断食し、その人の役に立つことを試してみてもよいでしょう。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	創造, 25
証, 34, 47	創造性, 38
イエスキリスト, 47	断食, F15
祈り, 30, 45, 47, F10	断食献金, 46
改宗・改心, F12	伝道活動, 22, 34, 46, F2, F4, F10, F12, F16
開拓者, F8	熱心さ, 22
家族, 2, 26	バプテスマ, 34
家庭の夕べ, 1, 26	奉仕, 34, 44
神の属性, 25, F10	模範, 34
体, 25	モルモン書, 47
祝福, 30	預言者, 2
初等協会, F12	靈感, 38, 44, 45
神権, F10	
信仰, 30, 34	
神殿, F6	
スミス, ジョセフ, F6	
聖霊, 44, 45, 47	



預言者の声を 心に留める

大管長会第二顧問

ディーター・F・ウークトドルフ管長

世界に広がるこの教会の一員であること、そして預言者、聖見者、啓示者から教えを受け、高められるということは何と大きな喜び、そして特権でしょうか！この教会の会員であるわたしたちは、それぞれに違った言葉を話し、様々な文化の下に暮らしていますが、皆、福音という同じ祝福を受けています。

この教会は、確かに世界規模の教会です。会員は地球の様々な国に広がっています。教会は、言語や人種、民族背景にかかわらず、すべての人々にイエス・キリストの福音という普遍的なメッセージを宣言しています。わたしたちは皆、愛に満ちた生ける神、すなわち天の御父の霊の子供であり、御父はわたしたちが無事に御自身のもとへ戻ることを望んでおられます。

心優しい天の御父は、わたしたちが福音に従った生活を送れるように、またわたしたちに御自身の永遠の真理を教え、導くために預言者を与えられました。今年、わたしたちは愛する預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)に別れを告げました。大管長は主からみもとに呼ばれるまで、長年にわたってわたしたちを導いてくれました。これからわたしたちは、新しい預言者の指揮の下で前進します。主はわたしたちを導くために、トーマス・S・モンソン大管長を召してくださいました。わたしたちを深く愛しておられる御父は、1800年代

の初めに預言者ジョセフ・スミスを通してこの偉大な業が回復されて以来、現代においても、途切れることなくわたしたちを導く預言者を与えてくださっています。わたしたちは、初期の聖徒たちについての記憶、すなわち、彼らの犠牲、悲しみ、涙、勇気、信仰、主への信頼をいつまでも忘れません。彼らもまた、当時の預言者に従っていたのです。

わたしの先祖に19世紀の開拓者はいませんが、教会員になったその日以来、大平原を横断した初期の開拓者たちを身近に感じてきました。彼らはわたしの霊の先祖であり、すべての教会員の先祖です。国籍、言語、文化の違いは関係ありません。開拓者は西部に安全な場所を築いただけでなく、世界のすべての国々に神の王国を築くための霊的な土台を築いてくれたのです。

わたしたちは皆、開拓者

回復されたイエス・キリストの福音のメッセージが世界中で喜びをもって受け入れられている今、わたしたちは皆、自分の影響の及ぼせる範囲、また自分がいる環境の中での開拓者です。わたしの家族が末日聖徒イエス・キリスト教会について初めて知ったのは、第二次世界大戦後のドイツの混乱期です。当時はジョージ・アルバート・スミス大管長(1870-1951年)の時代でした。わたしはまだ少年でした。わたし



わたしたちを深く愛しておられる御父は、1800年代の初めに預言者ジョセフ・スミスを通してこの偉大な業が回復されて以来、現代においても、途切れることなくわたしたちを導く預言者を与えてくださっています。



霊 感された
預言者の
勧告に
従っているでしょうか。
人類を
幸せにするために
できることの一つは
自分の家族を
強めることです。

たち家族はわずか7年間で2度も全財産を失った、先の見えない難民でした。しかし、その7年の間に得たものは、幾らお金を積んでも買うことができません。わたしたちは、天の避け所であり絶望から自分たちを守ってくれる場所、すなわちイエス・キリストの回復された福音と、まことの生ける預言者により導かれる主の教会を見いだしました。

イエス・キリストが人類のために完全な贖い^{あがな}を成し遂げ、すべての人を墓から贖い、各自の行いに従って報いてくださるといよいよ知らせは、わたしの生活に希望と平安をもたらしてくれる癒し^{いや}の力となりました。

人生でどのような困難に遭おうとも、キリストを信じるだけでなく、キリストはわたしたちを清め、慰めを与える能力と力をお持ちであることも信じるならば、わたしたちの荷は軽くなるのです。キリストの平安を受け入れることにより、わたしたちの生活に癒しがもたらされます。

わたしが10代のころの預言者は、デビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)でした。わたしは大管長を個人的に知っているような気がしています。大管長の愛と優しさ、威厳を感じることができました。若かったわたしの人生に、自信と勇気を与えてくれました。何千キロも離れたヨーロッパで育ったわたしですが、大管長に信頼されているように感じ、大管長を失望させたくないと思いました。

もう一つ、わたしの力の源となったものは使徒パウロの手紙でした。最も信頼する助け手であり友人であったテモテにあてて牢獄の中で書いたものです。

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆^{おく}する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:7-8)

古代に生きた、この救い主の使徒の書いた言葉は、戦後の時代を生きるわたしにとって非常に重要な響きを持っています。今日でも、この言葉の大切さを感じます。しかし、国際的な緊張、不安定な経済状態や政治情勢、またそれぞれの人生の問題などに直面する現代の生活の中で、何と多くの人が、不安や恐れにさいなまれる生活に甘んじているのでしょうか。

常に変わらぬ声

神は常に変わらぬ声でわたしたちに語りかけておられます。また、すべての人類家族に平等に接してください。大きなワードに集う人も小さな支部に集う人もいます。住む場所によって気候も育つ植物も違うでしょう。文化的背景や言語も異なり、肌の色もまったく違っているかもしれません。しかし回復された福音の持つ、普遍的な力と祝福は、文化や国籍、政治体制、伝統、言語、経済環境、教育を問わずすべての人に向けられているのです。

今日、わたしたちには再び、見張り台の見張り人であり、天からの癒しの真理を伝える使徒、聖見者、啓示者が与えられています。これらの人々を通して、神はわたしたちに語られます。彼らは、わたしたち会員が異なった環境で暮らしていることをはっきりと理解しています。この世にあってこの世の者ではない人々です。正しい生き方を示し、この世の知恵ではなく、永遠の知恵の源から、わたしたちが困難を乗り越えるための助けを与えてくれるのです。

ほんの数年前、大管長会メッセージの中で、トーマス・S・モンソン大管長はこのように話しました。「今日の様々な問題は、わたしたちの前にほんやりとその不気味な影を落としています。複雑化した現代社会の中であって、わたしたちは正しく賢明な進路を取ることができるよう、天に向かって確かな道を求めています。わたしたちの真心からの願いに、天の御父がおこたえにならないはずはありません。」¹

再び、地上に生ける預言者が与えられました。その預言者とはトーマス・S・モンソン大管長です。大管長はわたしたちの困難や不安を知っており、靈感によって答えを示してくれます。恐れる必要はありません。心の中に、そして家庭の中で平安を保つことができます。一人一人が神の戒めに従い、真

の悔い改め、贖いの力、赦しの奇跡に頼ることによって、この世に良い影響を及ぼすことができるのです。

預言者は主の御名により、神の言葉を分かりやすく語ります。モルモン書に書かれているとおりです。「主なる神は理解力に光をお与えになる。主なる神は、人々が理解できるように彼らの言葉に倣って語られる。」(2ニーファイ 31 : 3)

わたしたちの務めは主の言葉を聞くだけでなく、それに従って行動することです。そうすれば、回復された福音の儀式と聖約から祝福を得る権利を手にすることができます。主はこう言われました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約 82 : 10)

完璧な教会員になろうと懸命に努力しながらも、打ちのめされ、傷つき、失望の淵に立たされるように感じる時があるでしょう。そのようなときにも必ず、癒しと慰めを与えてくれる「ギレアデの乳香」があります。現代の預言者の言葉に耳を傾けましょう。預言者は、神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中で、わたしたちが最も大切な事柄から離れないよう助けてくれます。主はわたしたちを御存じであり、愛しておられます。また、わたしたちの成功を望んでおられ、励ましを与えておられます。「すべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。しかし……勤勉に励むのは必要なことである。」(モーサヤ 4 : 27)

預言者の勧告に従う

わたしたちは、自分の力以上に速く走らないよう気をつけながら、神の戒めに勤勉に従っているのでしょうか。それとも、熱心に努めることなく、のんびりと散歩しているだけでしょうか。時間や才能、手段を賢明に使っているのでしょうか。最も重要な事柄を中心としているのでしょうか。靈感された預言者の勧告に従っているのでしょうか。

人類を幸せにするためにできることの一つは自分の家族を強めることです。家庭の夕べの原則は1915年に与えられました。1964年にマッケイ大管長は、「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」²と語り、家族の大切さを両親に再び思い起こさせました。1995年、現代の預言者たちは、社会の基本単位である家族を強めるよう全世界に呼びかけました。³ 1999年に大管長会と十二使徒定員会は、愛を込め

て次のように述べました。「わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」⁴

わたしたちが謙虚になり、信仰をもって、預言者、聖見者、啓示者に心から勤勉に従うという決意と熱意を新たにしましょう。王国のすべての鍵を持つ人々の言葉に耳を傾け、教えを受け、教化されましょう。耳を傾け、従うときにわたしたちの心が改まり、善を行う大きな望みを持てますように(アルマ 19 : 33参照)。そのようにするとき、わたしたちは世界のあらゆる地に教会を建てるための霊的な土台を築く開拓者となります。そしてイエス・キリストの福音が神の子供一人一人への祝福となり、家族は一つに結ばれ、強められることでしょう。■

注

1. 「人生の大海原を安全に航海する」『リアホナ』1999年11月号, 6-7
2. J・E・マカロック, *Home: The Savior of Civilization* (1924年), 42; Conference Report, 1964年4月, 5
3. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49参照
4. 「大管長会からの手紙」『リアホナ』1999年12月号, 1

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたがたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 家から遠く離れた場所において、家へ帰らなければならないとき、どのようなものが必要となるか子供たちに質問する。地図を調べたり、道を知っている人に教えてもらったりすることがどのように役立つかを話す。預言者は天の御父のもとに帰る助けとなるよう、御父が与えてくださった案内役であると説明する。この点を強調している箇所を本文から引用する。

2. 自分が子供あるいは10代であったときの大管長についての思い出を話す。人生の中で、生ける預言者の教えがどのように自分を導いてくれたかについて話す。

ヘンリー・B・アイリング管長

神に召された人

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

ヘンリー・ベニオン・アイリング管長がリックスカレッジ（現ブリガム・ヤング大学アイダホ校）の学長に就任してから数年たったころ、ヘンリーは南カリフォルニアで高収入の、名誉ある仕事の申し入れを受けました。

ヘンリーがその仕事と待遇について話したとき、スペンサー・W・キンボール大管長はこう言いました。「すばらしい話じゃないか。君の助けが必要なとき、居所が分かるしね。」

ヘンリーは、おじであるキンボール大管長からリックスカレッジにとどまるように頼まれると思っていたので意外でした。ヘンリーと妻のキャスリーンは、自分たちの選択について祈り、断食をするべきであることがはっきりと分かりました。二人はそうになりました。それから1週間しないうちに、御霊はヘンリーが「もうしばらく」リックスカレッジにとどまる特権にあずかるであろうとささやきました。

その後、ヘンリーは当時の教会教育システム教育委員長であったジェフリー・R・ホランドに電話をかけ、仕事の申し入れを断ったことを伝えました。その夜、ヘンリーはキンボール大管長から電話を受けました。

キンボール大管長は次のように言いました。「留任することにしたらいいね。」



「はい。」

すると、キンボール大管長はこう尋ねました。「せっかくのチャンスを犠牲にしたと思っているかい？」

「いいえ。」

「それでいいんだよ！」キンボール大管長はそう言ってヘンリーの決断に確信を与え、もうその話をしませんでした。

ヘンリー・B・アイリングを知る人々なら、「たとえ世が重要視する事柄をあきらめなければならないとしても、霊的な促しに従いたい」という彼の姿勢に驚くことはないでしょう。神の子供たちが信仰と謙遜に従順さを加えるなら、俗世的な富よりもさらに価値ある祝福を受けるにふさわしくなれることを、彼は自分自身の経験から学んできたのです。

2008年1月27日にゴードン・B・ヒンクレイ大管長が亡くなった後、トーマス・S・モンソン大管長はアイリング管長を大管長会の第一顧問として召しました。それまでの4か月間、アイリング管長は、ジェームズ・E・ファウスト管長の死去により生じた空席を埋めるために大管長会の第二顧問として奉仕しました。

家族や友人から「ハル」と呼ばれるヘンリーは、1933年5月31日、ニュージャージー州プリンストン





前ページ(上)——アイリング管長の家族(左から)父親のヘンリー、兄弟のテッドとハーデン、少年ヘンリー(愛称「ハル」)、母親のミルドレッド。ハル、1951年高校時代の卒業アルバムから。右——曾祖父ヘンリー・アイリングとメアリー・ボメリ。

で生まれました。彼は、ヘンリー・アイリングとミルドレッド・ベニオン・アイリングの間に、3人の息子の次男として生まれたことで、霊的な教育と現世にかかわる教育の両方を重視する家族の一員となりました。

父親はプリンストン大学で教える著名な化学者でした。ユタ大学の女子体育学部で学部長を務める准教授だった母親は、学部から休暇をもらってウイコンシン大学で博士号取得のために学んでいるとき、将来夫となる男性と出会いました。二人はともに、主への信頼と主の福音を信じる信仰を息子たちに伝えていきました。

信仰の受け継ぎ

アイリング管長の家族に受け継がれてきた信仰は、御霊の促しと神権指導者の指示に耳を傾けて従ってきた先祖に由来します。1853年、18歳でドイツを離れた曾祖父ヘンリー・アイリングは、翌年ミズーリ州セントルイスで教会を紹介されました。教会に関する啓示を得たいという曾祖父の望みは夢でかなえられました。夢の中で、まだ会ったことのない十二使徒定員会のエラスタス・スノーが現れ、バプテスマを受けるよう命じたのです。1860年に現在のオクラホマ州とアーカンソー州で伝道していたときにも似たような夢を見て、その中でブリガム・ヤングと初めて会いました。¹

伝道後、ユタ州へ向かう開拓者のある隊に加わったとき、曾祖父はスイスから移民してきたメアリー・ボメリと出会いました。メアリーが24歳のときに家族は教会に加わりました。メアリーは、福音を宣べ伝えたことでドイツのベルリンで投獄されたことがありました。逮捕された夜、彼女は自分の審理を行う裁判官に手紙を書きました。彼女は「この世的な人間」であるその裁判官に、復活や霊界について教え、自分自身とその先祖を「大いなる悲しみ」から救うために悔い改めるように勧めました。裁判官は早急に訴訟を取り下げ、メアリーは監獄から出ることができました。² ヘンリーとメアリーはソルトレーク盆地に到着して間もなく結婚しました。

ヨーロッパから始まり、ユタ州南部とアリゾナの砂漠を経て、メキシコ北部の入植地へと、アイリング管長の祖先は荒野を開拓し、福音を広め、迫害を逃れ、学校を設立し、子供たちに教育を施してきました。

妻の影響

第二次世界大戦が勃発し、ガソリンが配給制になったことでアイリング家族は日曜日の集会のためにニューブランズウィック支部までの17マイル(27キロ)の道を車で行くことができなくなりました。そのため、ニュージャージー州プリンストンの自宅で集会を開く許可を得ました。ハルはよく冗談で、一度も初等協会の集会を欠席したことがなかったと言いました。もっとも、自宅で初等協会が開かれたのは一度だけだったので、それほど難しい達成事項ではありませんでした。



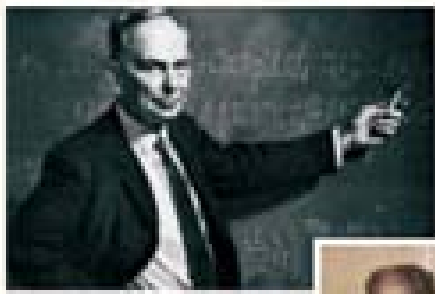
アイリング管長は、この小さな支部で開かれた、家族や時折訪れる訪問者だけの聖餐会せいさんで感じたすばらしい御霊についてよく振り返ります。集会にいつも出席するのは家族だけであったことや、支部のアロン神権定員会が全員自分の兄弟だったことは気にしませんでした。しかし息子たちが10代になり始めたころから、アイリング管長の母親は家族のために末日聖徒の数がもっと多い場所に住みたいと切望するようになりました。

1946年、アイリング管長の父親ヘンリーはプリンストン大学で功績を上げ、仕事を楽しんでいました。多数の名誉博士号や、化学における大きな賞もほとんど受けていました。世界の著名な科学者たちとともに献身的に

研究を重ねたおかげで、ノーベル賞の候補になるほどすばらしい機会に恵まれていました。

このころ、ヘンリーはユタ大学学長のA・レイ・オルピンから電話を受け、同大学の大学院の学部長になり、化学研究を続けたいかと招かれました。妻のミルドレッドは決断をヘンリーにゆだねましたが、同時に、何年も前にヘンリーが彼女にした約束を覚えているか尋ねました。息子たちが大きくなったら教会本部の近くへ引っ越すことをヘンリーは約束していたのです。ヘンリーが仕事の申し入れを断った後、ユタで育ったミルドレッドはヘンリーに自分の決断について祈るように勧め、手紙を渡して研究所に到着してから読むように言いました。

手紙を読むと、そこにはミルドレッドの失望の気持ちがつづられていました。祈って熟慮した後、ヘンリーはオルピン学長に電話をかけ、大学の科学部を強化するために申し入れを受諾すると告げました。プリンストンを去ることでさげすまれた大きな犠牲はヘンリーと家族にとって祝福となりました。この選択がもたらした祝福の一つとして、何年後にもハルが同じような岐路に立たされたとき、進んで父親の模範に従ったことが挙げられます。



将来に備える

アイリング管長の妹ハーデン・アイリングはこのように語ります。「兄が10代のとき、ほかの10代の若者とどれほど違うかに気づきました。」ハーデンは兄のことを良い助言者、そして友と呼んでいます。ハーデンによれば、ハルは高校生のときに聖文に没頭し、モルモン書を5回通読しました。

ハルが人を見下すことはありませんでしたが、自分の霊性を下げるような活動への参加は断りました。ハルは、ソルトレーク・シティのイースト高校でバスケットボールをする時間は取っていましたが、常に勉強を第一にしていました。

ハーデンはこう述べています。「10代のころ、わたしは皆と同じようにアイスクリーム屋によく行きました。でも、ハルが夜に地元のたまり場に出かけることはありませんでした。彼は読書をしたり、勉強したりしていました。」

ユタ大学の化学教授であるハルの兄テッドは、同大学の4年生だったとき、ハルと同じ講義を受けました。テッドはハルがほかのどの学生にも引けを取らないのを見ました。「集中して取り組むと、ハルは何でも達成できます。とても愉快な人で、深刻な、困難に満ちた状況にあっても明るさは失いません。ハルは父にとってもよく似ています。」

しかし成長するにつれ、ハルは父親と自分に大きな違いがあることに気づきました。

父親ヘンリー・アイリングは息子たちに、物理学を学び、将来、科学の分野で活躍するために備えるよう奨励しました。ハルはその勧めに従ってユタ大学で物理学を専攻しました。ある日、難易度の高い数学の問題を解くうえで父親の助けを求めたとき、父親のヘンリーはハルには自分と同じくらいの情熱がないことを悟りました。

アイリング管長はこのように回想します。「父は、地下室に置いてあった黒板に書いていました。すると、突然手を止めてこう言いました。『ハル、1週間前も同じような問題を解いたじゃないか。あのときと比べてもっとも分かるようになっていないよだね。このことについて勉強しなかったのかい?』」

勉強をしていなかったと、ハルは正直に告げました。そしてさらに、物理学について四六時中考えているわけではないと打ち明けました。父親は少し間を置いてから、優しい口調で言いました。「ほかのことを考えなくてよいときに、頭がそのことばかり考えてしまうほど大好きなものを見つけるべきだ。」³ この言葉のおかげで、ハルは気兼ねなく自身にふさわ



しい職業を模索するようになりました。

それでも、ハルは1955年、合衆国空軍に入隊する前に物理学の学位を取得しました。朝鮮戦争が終結したばかりで、各ワードから専任宣教師として召される青年の数が制限されてい



ました。しばらくの間、ソルトレーク・シティーの伝道本部が閉鎖され、一人も宣教師が派遣されませんでした。しかし、ハルのビショップはある祝福の中で、軍務に従事することが彼の伝道になると約束しました。ニューメキシコ州アルバカーキの近くのサンディア基地に到着して2週間後、ハルは西部諸州伝道部の地方部宣教師として召され、軍役に就いていた2年間、平日の夜と週末にその責任を果たしました。

軍務が満了した後、ハルはハーバード大学の経営大学院に入学し、そこで経営管理学を学び、1959年に修士号を、そして1963年には博士号を取得しました。科学の分野で十分立身するだけの学問を修めていながらも、ハルは人を教え、高め、強めることに情熱を見いだしたのでした。

御霊に耳を傾ける

1961年夏、ハーバード大学に在学中のハルは、カリフォルニア州パロアルトのJ・シリル・ジョンソン、ラブレル・リンゼー・ジョンソン夫妻の娘であるキャスリーン・ジョンソンと出会いました。キャスリーンはボストンで夏期講習を受講していて、ハルは初めて会ったときから恋に

落ちました。彼女のそばにいたときは最良の自分でありたいとハルは即座に思いました。

この気持ちは二人がともに過ごしてきた半生にわたってずっと続いています。

二人はその夏の間デートを重ね、キャスリーンがカリフォルニアに戻った後も電話や手紙を通してコートシップを続けました。二人は1962年7月、ユタ州ローガン神殿でスペンサー・W・キンボール長老の司式によって結婚しました。同年、ハルはスタンフォード大学の経営大学院で准教授になりました。

その9年後、ハルはスタンフォードで終身在職権を得、スタンフォード第1ワードのビショップを務めていました。義理の家族が近くに住み、「すっかり落ち着いていた」とハルは振り返ります。ところが、1971年のある夜中、キャスリーンはハルを起こし、二つの変わった質問を投げかけました。「あなた、自分の人生でほんとうになすべきことをしていると思う?」

これ以上どんな幸せがあるのだろうかと思に不思議に思いながら、ハルはこう尋ねました。「どういう意味だい?」

キャスリーンはこう答えました。「ニール・マックスウェルのもとで研究ができるんじゃないかしら?」

当時、ニール・A・マックスウェルが教会教育システムの教育委員長に任命されたばかりで

前ページ—

アイリング管長の両親と、1969年に撮影された父親の写真。

右上—

リックスカレッジの学長として働いていたころ。

中央—

妻キャスリーンと結婚披露宴で。

左上—

リックスカレッジの学長として

ドナ・パッカー姉妹に1973年の

模範的な女性賞を授与しているところ。

同写真には

ボイド・K・パッカー会長と当時の女子学生協会会長の

デニス・ハンセン・

ジョンソンも写っている。



上—
十二使徒定員会会員として、
1997年に撮影。

中央—
最近、ユタ州南部を
訪問したときのもの。

右—
十二使徒定員会の
M・ラッセル・
バラード長老とともに
2004年6月、
世界指導者訓練集会
において。

次ページ—
1995年の
家族写真(前列左から)
メアリー・キャスリーン、
アイリング管長と
アイリング姉妹、エリザベス、
(後列左から)
ジョン、マシュー、
スチュアート、ヘンリー。



した。ハルもキャスリーンも彼と面識はありませんでしたが、夫が人々の人生を変えるためにさらにできることがあるかもしれないと、キャスリーンは思ったのです。

ハルは次のように返答しました。「ニール・マックスウェルのもとで研究？ 順調にキャリアを積んできたのに？」ハルは心の中でこう思いました。「『研究』なんて、若い大学院生のすることだ。」

少し間を置いた後、キャスリーンがこう言いました。「このことについて祈ってくれる？」

それまでの結婚生活から、ハルは妻の勧めを無視するべきでないことを承知していました。ハルはベッドから出てひざまずき、祈りをささげました。「何の答えも受けませんでした。わたしはどこにも行きたくないと思っていましたから、ほっとしました。」

翌日、ビショップリックの集会中にハルがよく知っている御霊の声が彼の心に語りかけ、妻の促しを軽んじたことについてとがめました。



「どんな道をたどるのが自分にとって最善であるか、あなたは分かっていません。次に仕事の申し入れを受けたら、わたしに相談なさい。」

ハルはこの経験に動揺し、直ちに帰宅しました。彼はキャスリーンにこう告げました。「大変なことになったぞ。」ハルは、スタンフォードに在任している間に受けていた幾つかの仕事の申し入れを断ってきたことが間違いだったのではないかと恐れました。「どれについても一度も祈ったことがなかった。」彼はへりくだって、自分の将来について祈り始めました。

キャスリーンが夜中に質問を投げかけてから1週間もしないうちに、マックスウェル教育委員長が電話をかけてきて、ソルトレーク・シティーでハルに会いたいと言いました。ハルは翌日に飛行機で赴き、二人はハルの両親の家で会いました。マックスウェル教育委員長は開口一番に次のように言いました。「あなたにリックスカレッジの学長になっていただきたいのです。」



妻の勧めと霊的などがめを受けていたものの、ハルは驚かすにはられませんでした。それについて祈る必要があるとマックスウェル教育委員長に告げました。というのも、リックスカレッジについてほとんど知らなかったのです。翌日、ハルは大管長会と会いました。その後、マックスウェル教育委員長は、学長になるかどうかはあなた次第ですと言いました。

カリフォルニアに戻った後、ハルは熱烈に祈り続けました。答えが来ましたが、危うく聞き損ないそうになりました。「あまりにもかすかな声だったので、聞き流していました。その声はこう言いました。『それは主なるわたしの学校である。』」ハルはすぐにマックスウェル教育委員長に電話をして、こう伝えました。「そちらへ参ります。」

ハルはスタンフォードでの終身在職権から受けていた恩恵をあっさりと投げ出し、アイダホ州レックスバーグで狭いトレーラーハウスに移り住みました。そして、リックスカレッジの学長として就任して数か月たった1971年12月10日、自身も建設に携わった新居によく引っ越しました。

彼は次のように語っています。「リックスで働きながら、幾つかの事柄を知りました。一つ目は、スタンフォードでのすばらしい地位を得ていた自分が思っていたほど偉大な人物ではなかったことです。もう一つは、わたしよりも妻が先に啓示を受けたことを悟ったことです。そして最後に、リックスに行けたことは幸運なことだったということです。ですから、『スタンフォードでのキャリアをどうしてあきらめられるだろうか』と自問するのではなく、このように言います。『天の御父がすべてを用意してくださったのだ。犠牲を払ったと感じることはない。』」

アイリング学長がレックスバーグで過ごした6年間は、彼の家族と大学にとって祝福となりました。謙遜なホームティーチャーから受けた賢明な勧告のおかげでその期間は思い出深いものになりました。篤い信仰を持つ農夫であったそのホームティーチャーは、ハルに学長室を出て大学の職員、スタッフ、そして学生たちと会い、彼らを励まし、感謝を述べるように勧めました。

ハルがそのことについて祈った結果、勧告に従った方がよいと感じ、大学の忠実な学生や献身的な職員、スタッフとともに過ごす時間を増やし始めました。ある別の講師とともに自ら宗教教育クラスも教えました。大学に霊的、および学業的な礎を築こうと努める中で、ハルとキャスリーンはキャンパスとレックスバーグの人々を愛するようになりました。

家族を第一に

レックスバーグで過ごした月日の中で、アイリング家は互いのきずなを深めていきました。レックスバーグに行くまでに、ハルとキャスリーンの間にヘンリー・J、スチュアート、マシュー、ジョンという4人の息子が生まれました。後に2人の娘、エリザベスとメアリー・キャスリーンに恵まれます。しかし、小さな、農業が盛んな田舎町であっても、ハルとキャスリーンは注意しなければなりません。二人が心配したことの一つは、息子たちがどのくらいの時間、どのようなテレビ番組を見ているかでした。長男のヘンリー・Jはアイリング家の空気を一変させた一つの経験についてこのように振り返っています。

ヘンリー・Jは次のように語っています。「ある土曜の真夜中、弟とわたしはテレビの前にいました。わたしたちが見るべきでない下品なコメディ番組が放送されていました。地下にあったその部屋は、テレビが発する光以外は真っ暗でした。予告なしに母が部屋に入って来ました。彼女は白の、すその長いナイトガウンを着ていて、剪定ばさみを持っていました。母は音を立てずにテレビの後ろに手を伸ばし、コードをつかみ、輪を作りました。それからはさみを差し込んで、一気にコードを切断したのです。火花が散り、テレビから映像が消えました。でも、母はとっくに向き直って部屋を出て行っていました。」

すっかり肝をつぶしたヘンリー・Jはベッドへ向かおうとしました。しかし、斬新な発想をする弟は壊れた掃除機のコードを外してきて、テレビにつなげました。少年たちは番組をほとんど見逃すことなく、すぐにまたテレビの前に座り込みました。

ヘンリー・Jは次のように語ります。「でも、最後に笑ったのは母でした。次の月曜日、学校から帰宅すると、分厚いガラスの画面に大きなひびが入ったテレビが床の真ん中にありました。わたしたちはすぐに母を疑いました。問い詰めてみると、彼女はきわめてまじめな顔でこう答えました。『テレビの

下のはこりを取っていたら、ひっくり返しちゃったのよ。』」

アイリング管長は妻の望みを尊重し、子供たちも母の願いを尊重したため、アイリング家に再びテレビが置かれることはありませんでした。ヘンリー・Jはこのように述べています。

「たいていの場合、母は静かな模範を通して導いてくれます。でも、そうであると同時に靈感をよく受けますし、恐れを知りません。母の決断力の強さは子供たちや孫た

ちに大きな祝福をもたらしています。人生の岐路に立たされたときだけでなく日々の生活の中でも、母はわたしたちの人生の方向性を永遠に変えてくれました。」

アイリング管長は今でも、自分が最善を尽くし、最良の自分でありたいと思うのは妻のおかげであると言います。そして、彼女が子供たちにも同じように祝福をもたらしてきたことに感謝の念を抱いています。

アイリング管長は妻の模範と家族に対する霊的な影響力をたたえています。そしてキャスリーンも、ハルが御霊に敏感であることや、家庭で効果的に福音を教え、それに従って生活してきたことを称賛し、感謝しています。

彼女はこうに言っています。「ハルの心の中でだれが第一であるかは明白です。スタンフォードでは有能な同僚がたくさんいる、競争に満ちた環境で生きていましたが、彼はいつも家族を第一にしていました。毎晩、一日の終わりに家族が集まっていると、必ずこう尋ねてきました。『だれか電話をかけるべき人がいるかな?』そして御霊に導かれながら電話のところへ行き、その晩連絡する必要のある家族にかけるのでした。」

家にテレビがないおかげで、アイリング家は一緒に過ごす時間が増え、興味のある事柄を探求し、才能を伸ばし、家族でスポーツやその他の活動を行う時間が増えました。長年かけて、アイリング管長は料理の腕を磨き(管長は自分でパンを焼きます)、木彫りの才能を見だし、水彩画を学びました。時折、記念としてお礼用のカードや水彩画を贈ったりします。



^{こんにち}今日のアイリング家には、アイリング管長が師と仰ぐ熟練者たちの助けによって製作した絵画、彫刻、家具などが多数あります。多くの作品は道徳的な教えや霊的な印象を描写しています。それらに加え、アイリング管長は毎日、「小版」の愛称で知られる電子メールを、25人の孫を含め、家族皆に配信しています。

ヘンリー・Jはこのように語っています。「子供たちから写真や情報提供の協力を得て父が毎日電子メールで配信している家族日記は、毎晩皆で夕飯の食卓を囲みながらその日の出来事を語り合ったりしているような心地にさせてくれます。」

奉仕への意欲

当時のアイリング管長は気づきませんでした。リクスカレッジの仕事を引き受けたとき、彼は俗世における職業を離れました。学長としての仕事と、それと同時期に務めた地区代表や中央日曜学校管理会の一員として奉仕したことは教会指導者とともに働く機会をいっそう増やし、これらの機会を通して指導者たちはハル

の才能や霊的な賜物^{たまもの}に気づきました。一方、

主は奉仕することに対するハルの意欲を御存じでした。

リクスカレッジで6年を過ごしたアイリング管長に重要な召しを与えるに先立って、教会の指導者たちは啓示を求めてきました。その結果ハルにたどり着いたのです。それらの召しを受けるために備えている間、ハルは御霊によって教えを受けてきました。働いているときも、天の御心^{みこころ}を求めているときも、答えを受けようと耳を傾けているときも、彼の先祖と同じように、受けた促しを実行するときも、いつもそうでした。こうして、召しが来たとき、ハルの準備はできていました。

1977年、新しく教会教育システム教育委員長として召されたジェフリー・R・ホランドがアイリング管長に教育副委員長になってほしいと依頼しました。その3年後、ホランド教育委員長がブリガム・ヤング大学の学長になったとき、ハルが後任として教会教育システム教育委員長になりました。この職は1985年4月、管理ビショップリックの第一顧問として召されるまで果たしました。管理ビショップリックで奉仕していた間、自分の様々な能力を駆使して管理運営、施設計画、神殿の設計と建設、その他の実務において多大な貢献をしました。1992年9月、ハルは再び教会教育システム教育委員長に任じられ、その1か月後、七十人第一委員会に召されました。



1995年4月1日、ヘンリー・B・アイリングは十二使徒定員会の一員として支持を受けました。以来、主の御霊をいっそう熱心に求めてきた彼は、心のこもった説教と愛に満ちた奉仕、救い主とその福音についての力強い証を通して世界中の教会員に祝福をもたらしてきました。

特別なふさわしさを持つ人

アイリング管長が2007年10月の総大会で、生活の中で神の手が差し伸べられた出来事を探すことから得られる祝福に関して証を述べたとき、個人的な経験から語りました。アイリング管長は、自分の生活において天の御父がしてくださったことを毎日日記に記録することによって、証がはぐくまれ、「天の御父が祈りを聞き、こたえてくださるという確信が今までになく強ま[る]」⁴のを感じてきました。

それらの答えを聞き、神がわたしたちの生活に関心を寄せておられるのを知るための鍵は、聞く能力を高めることだとアイリング管長は言います。「わたしたちは静かに耳を傾けなければなりません。わたしの人生の中で、はっきりした気持ちを受けられなかったり、御霊の声を聞き逃したりしたときの原因は、わたしが忙しすぎて心が乱れ、自分のことしか考えていなかったからです。」

アイリング管長は常に、信仰箇条第13条の教えに基づいて生活してきました。トーマス・S・モンソン大管長とディーター・F・ワークトルフ管長の傍らでハルが奉仕することにより、教会員は多くの祝福を受けられるでしょう。才能、信仰の受け継ぎ、備えられてきた半生、奉仕への熱意、そして神を求めてその御心を果たしたいという決意を兼ね備えたたくいまれな存在であるア

アイリング管長は、大管長会で奉仕するための特別なふさわしさを持ち合わせているのです。■

注

1. ヘンリー・J・アイリング, *Mormon Scientist: The Life and Faith of Henry Eyring* (2007年), 127 - 130参照
2. ヘンリー・B・アイリング「教義を教える力」『リアホナ』1999年7月号, 87 - 88参照
3. ジェラルド・N・ランド「ヘンリー・B・アイリング管長——『決定的影響』を受けながら歩んだ道」『聖徒の道』1996年4月号, 28参照
4. ヘンリー・B・アイリング「記憶にとどめ、覚えておきなさい」『リアホナ』2007年11月号, 67



次ページ——
**家族の『小版』を印刷したものを、
 アイリング管長が彫った
 木製のチェスト、水彩画数点。
 上——
 妻とともに、
 2007年10月の
 総大会にて。
 左——
 大管長会
 トーマス・S・
 モンソン大管長(中央)、
 第一顧問のヘンリー・B・
 アイリング管長、
 第二顧問のディーター・F・
 ワークトルフ管長。**

ディーター・F・ ウクトドルフ管長

家族の人，信仰の人，
予任された人

十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン長老

1952年，ディーター・ウクトドルフは家族とともに東ドイツ¹の家を捨て，自由を求めて西ドイツへと逃れました。11歳の少年だったディーターにとってどれほど恐ろしいことだったか想像できるでしょうか。政治的な理由により，父親の命はさわめて危険な状況に置かれていました。妻と子供たちへの危険をなるべく小さくするため，父親は独りで逃げなければなりません。疑われないように，残りの家族も一緒に行動することはできません。別々に逃亡を図らなければならなかったのです。

計画は実行されました。ディーターの二人の兄，ウォルフガングとカールハイッツは，住んでいたツピツカウから北へ向かうルートを取りました。姉のクリステルは二人の少女とともに列車に乗りました。行き先は東ドイツの町でしたが，途中でほんのわずかの区間，西ドイツ領を通過するのはです。西ドイツに入ったとき，姉たちは車掌を説得してドアを開けてもらい，列車から飛び降りました。

末っ子のディーターと勇気ある母親はさらに別の道を選びました。持って行ったものは少しの食料と，第2次世界大戦



の戦火の中でも失われなかった大切な家族の写真だけでした。二人は何時間も歩き続けました。ウクトドルフ姉妹のひざの調子がおかしくなってきました。ディーターは荷物を持ち，母親が自由への最後の丘を登れるよう手を貸しました。二人は立ち止まり，わずかばかりの食事をしました。しかしそのとき，ロシアの警備兵が目に入りました。二人はまだ国境を越えていなかったのです。母と息子の楽しい食事は終わりました。荷物をまとめ，目的地にたどり着くまでさらに丘を登り続けることになりました。

ディーターと母親は難民として旅を続け，ヒッチハイクと徒歩でフランクフルト郊外の目的

地を目指しました。長い間離れ離れになり，危険と隣り合わせの日々を送っていた家族はついに再会しました。最初に二人の兄，続いて父親が到着しました。それからディーターと母親，最後に姉が到着しました。喜びに満ちたすばらしい再会となりました。

ウクトドルフ家族は事実上ほぼすべての財産を残してきましたが，それは大して重要なことではありませんでした。

その7年前，第2次世界大戦の終結間際にも，家族は家を



前ページ(上から)——スイス・ベルン神殿の前に立つ
ウクトドルフ管長の両親, ヒルデガルトとカール。

12歳のころ。2歳のディーター(右から2番目),
姉のクリステル(右)と二人の友人とともに。

右(上から)——

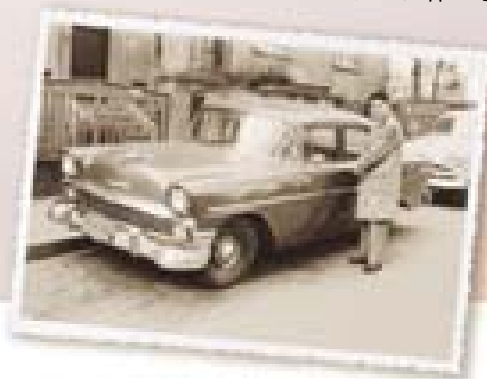
ディーター(右), フランクフルトの集会所の前で友人とともに。

ヤングシングルアダルトの集会で(後列左端),

将来の妻ハリエットも前列の左から2番目に写っている。

フランクフルトで, 友人の車のそばで撮影。

捨てて避難したことがありました。外国の軍隊が近づいていたからです。そして今, 再び難民となってしまいました。また一文無しになってしまったのです。もう一度, 最初からやり直さなければなりません。しかし家族は一つになっていました。ほんの5年前に



末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となったウクトドルフ家族は, 神への強い信仰を共有していたのです。

フランクフルト近郊にあった一間のアパートは狭く, ねずみの巣のようでした。ディーター少年は, 走り回るねずみに興味を持ちました。フランクフルトの公共交通機関は比較的安く乗れましたが, 家族全員が毎週教会に行く余裕はありませんでした。そのため, 家族は順番で教会に通いました。

ウクトドルフ管長が家族という神聖な制度について特別な思いを抱いていることは驚きに値しません。管長は, 家族が神によって定められていることを心から証^{あかし}しています。管長にとって家族ほど大切なものはありません。ウクトドルフ管長の心に力強い信仰の種がまかれ, 大切に育てられたのは, まさしく家族の中でした。教会で神権指導者になるという予任が成就する備えは, 家族の中で始まったのです。

家族の人

ディーター・フリードリッヒ・ウクトドルフは, 1940年11月6日, チェコスロバキアのマリッシュ・オストラウで, 善い両親, カール・アルベルト・ウクトドルフとヒルデガルト・エルセ・オペルト・ウクトドルフ夫妻の間に生まれました。家族は1944年にチェコスロバキアからドイツのツビッカウに移りました。石炭鉱業が盛んなツビ

ッカウは1949年から1990年まで東ドイツの町でした。第2次世界大戦中は戦略上の重要な拠点であったため, 連合軍爆撃機の主要な攻撃目標となりました。当時4歳だったディーターは怖い思いをしましたが, 同時に頭の上を飛

ぶ航空機に魅了されました。命からがら, 母親に連れられて防空壕^{ぼうくうごう}に入ったことも覚えています。父親はドイツ軍に召集されて不在でした。ウクトドルフ姉妹は, ヨーロッパで戦争の渦に巻き込ま





れながらも勇敢に家族を守っていました。

終戦後、ディーターの父親はツビッカウにある石炭とウランの採掘所で働きましたが、そこは悪性の病気にかかる危険性の高い環境でした。父親は62歳のときにドイツで亡くなっています。ウークトドルフ管長は、父親が親切で愛にあふれ、強さと優しさを兼ね備えた人物だったことを覚えています。執事、教師、祭司、そして長老として神権の責任を尊んでいました。

母親のヒルデガルトは1991年に亡くなりました。勇氣ある女性であっただけでなく、教会で多くの召しを果たした真の改宗者であり、献身的な弟子でした。

両親と子供たちは1956年にスイス神殿で結び固められました。その後、二人の兄、ウォルフガングとカールハインツは亡くなっています。姉のクリステル・ウークトドルフ・アッシュはドイツで伝道し、現在は合衆国南部のテキサス州に住んでいます。

ウークトドルフ管長は、教会で開かれていた相互発達協会の集会で、将来の妻となるハリエット・ライヒ姉妹と出会います。ハリエットは13歳の誕生日を迎える少し前に、母親と妹とともにバプテスマを受けました。宣教師が自宅を訪れ、福音を教えたのです。父親はちょうどその8か月前に^{がん}で他界していました。母親と妹も今は亡くなっています。

ライヒ家族に福音を教え、バプテスマを施した宣教師の一人、ゲーリー・ジェンキンス長老

は、後に素晴らしい報いを受けました。自身の伝道から何十年もたった2008年2月16日、ソルトレーク神殿において、大管長会の一員であるディーター・F・ウークトドルフ管長により、孫娘のクリスタルが夫となるスティーブンと結び固められたのです。ジェンキンス長老にとって喜びに満ちた日となりました。

ハリエットとディーターは1962年12月14日、スイスのベルン神殿で結び固められました。ディーターはハリエットのことを人生の太陽と呼んでいます。ハリエットの支えは常にディーターの力の源となっています。ディーターの人生でかけがえのない女性なのです。一方、ハリエットは夫を広い心の持ち主だと言います。「夫は親切です。善良で哀れみ深い指導者です。教会の友人だけでなく、以前の職場の同僚も同じように話しています。すてきな夫であり、どうしたらわたしを支えられるかをいつも考えてくれます。素晴らしいユーモアと知恵にあふれた男性です。ディーターの妻であることは大きな祝福です。」

ウークトドルフ夫妻には二人の子供がいます。娘のアンティエはダビド・A・エバンス兄弟と結婚しました。二人の間には3人の息子がいます。19歳で双子のダニエルとパトリック、そして8歳のエリックです。一家は現在、ドイツのダルムシュタットに住んでいます。

息子のギドはワシント





ンD.C.南伝道部で伝道しました。スイスのバーゼル出身のキャロリン・ワールドナー姉妹と結婚しました。今はスイスのチューリヒに住んでいます。ギドはスイス・ザンクトガレンステークのベツィコンワードでビショップとして奉仕しています。7歳のジャスミン、5歳のロビン、そして1歳のニクラスという3人の子供がいます。

父親について、また大管長会顧問という新しい召しについて尋ねられたアンティエはこう答えています。「わたしたちはすばらしい両親に恵まれました。小さいころ、いつも一緒にいてくれたので、父がとても忙しかったということは知りませんでした。わたしたちのことを最優先してくれました。問題があると父に助言を求めました。子供たちも、オパ(訳注——ドイツ語で「おじいちゃん」の意)はどんな質問にも答えてくれると思っています。父が大管長会の一員となり、わたしたちは自分の最善を尽くすというさらに大きな責任を感じています。」

ギドにも同じような思い出があります。数年前にアンティエと母、そして父と一緒に4人でスキー教室に参加したときのことを話してくれました。そのとき、一緒にスキーをするという楽しい家族の伝統が生まれました。ギドは、飛行機のパイロットという職業柄、父親が長い間家

を空けなければならないということを知っていました。「ですが、父が帰宅すると、一緒に遊び、おしゃべりをし、笑いました」とギドは話します。「それはすばらしい時間でした。」

ギドとアンティエは、家族で一緒に過ごすことの大切さを両親から学びました。その目的が学習であれ遊びであれ、一緒に出かけることで家族のきずなは強まりました。離れていても、現代の技術を利用することで、親として、また祖父母としての役割を果たすのが楽になっています。インターネットで動画や写真を送れるようになり、電子メールや電話もさらに便利になりました。

それでも一緒にいる時間は大切です。特にギドにとって有意義だったのは、カンファレンスセンターの説教壇に父親が立った2008年4月の総大会に出席できたことです。

家族に助言を与えるときに、ワークドルフ管長はいつも基本的な原則を強調してきました。ギドは次のように語っています。「父は、祈りや聖文学習、戒めに従順であること、前向きであることで得られる祝福について教えてください。これらのことは、父にとって、コロブはどこにあるのだろうと考えることよりもはるかに大切なのです。」

ワークドルフ管長とワークドルフ姉妹は、結婚40周年を祝った際、息子夫婦と娘夫婦、そして年長の孫たちと一緒にスイスのベルン神殿に参入し、皆で神聖な儀式を受けました。ベルン神殿はハリエットとディーターにとって大

前ページ——
ドイツ空軍での6年間の後、
ディーターは
アメリカ空軍で
パイロットの免許を取得、
司令官賞も授与された。
上——
パイロットという職業柄、
長期にわたって
家を空けることも多かったが、
二人の子供(両親と一緒に
写っている)は、父親が
いつも子供と過ごす時間を
優先してくれたことを
覚えている。

ワークドルフ管長は、
1996年に
七十人第一定員会で
奉仕する召しを受ける前、
ルフトハンザ航空に
勤務していた。

次ページ――

ワークドルフ家族、
2006年。

後列左から――

バトリック・エバンス(孫)、
ハリエツト、

ディーター、そして

ダニエル・エバンス(孫)。

前列左から――

ダビド・エバンス

(義理の息子)、

アンティエ・エバンス(娘)、

エリック・エバンス(孫)、

ロビン・ワークドルフ(孫)、

キャロリン・

ワークドルフ(義理の娘)、

ギド・ワークドルフ(息子)、

ジャスミン・

ワークドルフ(孫)。

2007年には、

ワークドルフ管長

夫妻にとって

最年少の孫、

ニクラス・イバン・

ワークドルフが

誕生している。



切な神殿です。なぜなら、二人も、二人の両親も、そして子供たちも皆この神殿で結び固めを受けたからです。

信仰の人

この偉大な人の人生についてよく知ると、だれもがその比類ない不動の信仰を感じずにはいられません。ワークドルフ管長はすべてにおいて神を信じ、主イエス・キリストを信じ、教会を信じ、必要なきに天の助けがあることを信じています。

ワークドルフ管長の両親は、自由と信仰のために自らの命を危険にさらしました。父親は託された神権を尊びました。母親は、特に危険に満ちた逃避行の最中に、祈ること、そして主を信頼することを教えてくれました。

ワークドルフ管長は母親のことを、とても優れた女性だったと語ります。暗算のできた彼女は、子供だったディーターにも暗算ができるよう教えてくれたそうです。家族は2度、戦争難民として財産を失いましたが、什分の一の律法に従った生活を送りました。忠実にこの律法を守る人に主は天の窓を開き、あふれる恵みを注がれるということを知っていたのです。²

ワークドルフ管長は、西ドイツ伝道部の伝道部会長として奉仕した故セオドア・M・バートン長老(1907 - 1989年)に特別な親しみを感じています。多くの善良な末日聖徒が母国を

去って行く中、バートン長老はワークドルフ家族に対し、ドイツに残って教会を築くよう助言し、家族はそれに従いました。ディーター・F・ワークドルフを長老の職に聖任したのは、ほかならぬこのバートン長老でした。ディーターは、聖任の際バートン長老から受けたすばらしい指示を忘れず、忠実に従いました。ハリエツト・ワークドルフ姉妹は、ヨーロッパに残って地元の教会を強めるようにという、バートン長老からワークドルフ家族への助言の大切さを理解しました。それは家族にとってぜひとも果たすべき義務となりました。子供たちもその助言に従っています。今となっては、子供たちから、家族をヨーロッパに残して両親はアメリカに行ってしまうというおしかりの冗談が飛ぶほどです。

もちろん、ワークドルフ管長に大きな影響を及ぼした指導者はバートン長老だけではなく





せん。ディーターは、執事定員会の会長に任命されたときの支部会長をよく覚えています。支部会長は、新たに執事定員会会長に召されたディーターの義務と責任について詳しく教えてくれました。ディーターはそのときに受けた指導の大切さをよく覚えています。執事定員会の会員は二人しかいませんでしたが、ディーターは支部会長の教えに忠実に従いました。

この家族の持つ信仰はワークドルフ管長の祖母の信仰によく表れています。第2次世界大戦の後、食料を買うために列に並んでいると、身寄りのない高齢の女性が彼女を聖餐会に誘いました。祖母とディーターの両親はともにその招きを受け入れました。教会へ行き、御霊を感じ、会員の親切に感動し、回復の賛美歌に心を高められました。³ 1947年、ディーターの両親はツピッカウでバプテスマを受けました。ディーターはそれから約2年後、8歳でバプテスマを受けました。教会に対する家族の気持ちは、強く、不変のものとなりました。

ワークドルフ管長は信仰という土台によって、自分には物事を成し遂げる能力があるという自信を増し加えていきました。工学教育を受けたディーターはドイツ空軍に入隊します。

空軍で6年間を過ごした後、ドイツと合衆国の政府間交流により、テキサス州ビッグスプリングのパイロット養成学校に入学しました。そこでドイツ空軍とアメリカ空軍の両方から飛行許可証を取得しました。また傑出した生徒として、栄えある司令官賞を授与されています。1970年、29歳のときに、ディーター・F・ワークドルフはルフトハンザ航空の機長になりました。その後、同社のチーフパイロット、運行管理部の首席副社長としても活躍しました。

2004年、ワークドルフ管長が十二使徒定員会に召される前、わたしは偶然にも彼と同じルフトハンザ機でヨーロッパに向かいました。乗客が機内で中央幹部を見かけてあいさつすることは珍しい光景ではありません。ただ、このときのあいさつは実に珍しいものでした。事実上すべての客室乗務員が、喜び勇んでかつてのチーフパイロットにあいさつに来たのです。ワークドルフ管長と握手する特権にあずかるために列ができました。彼らがワークドルフ管長を真に慕っていること、また彼がそうした尊敬を受けるにふさわしい人物だということがはっきりと感じられました。乗務員たちは、ワー

クトドルフ管長には信仰があること、そして管長が彼らのことを大切に思っていることを肌で感じているようでした。

ウークトドルフ管長が主を信じていることは、教会での召しを受け入れる姿からも明白です。1985年には、ドイツ・フランクフルトステーキの会長に召されました。その後、管轄地域の変更によって、マンハイムステーキの会長に召されます。1994年には七十人第二定員会に召されました。その間も続けてドイツに居を構え、ルフトハンザでの仕事も果たしました。そして1996年、七十人第一定員会で専任の中央幹部として奉仕するようになります。3年後、ウークトドルフ長老と姉妹はユタに移りました。二人はこの引っ越しの際、自分たちに「海外勤務」が回ってきたと思ったそうです。

2004年10月にウークトドルフ長老が聖なる使徒職に召されたとき、メディアの中には、「ドイツ人の使徒」とたたえる人もいました。これを聞いたウークトドルフ管長は、自分は人々に対する主の代表として召されたのであってその逆ではないと語り、正しい考え方を示しました。ウークトドルフ管長の受けた召しはまさに神聖なものです。「あらゆる国民、部族、国語の民、民族」⁴に対し、主イエス・キリストについて教え、証するという召しなのです。

デビッド・A・ベドナー長老はウークトドルフ長老と同時期に十二使徒定員会に召されました。ウークトドルフ管長が大管長会で奉仕する召しを受けたことについて、ベドナー長老

はこう語っています。「ウークトドルフ管長の隣に座り、ともに奉仕できたこと、彼から学ぶことができたのは、わたしの人生の大きな祝福となっています。ウークトドルフ管長の教えを聞き、魅力的で礼儀正しい振る舞いを見ると、もっと勤勉に働き、自分を磨かなければと感じます。神聖な責任を受けたウークトドルフ管長を愛し、支持しています。」

予任された人

この偉大な人の人生についてよく知ると、ウークトドルフ管長の偉大な責任が予任されていたものだったということも感ぜずにはいられません。予任の教義は昔も今も預言者によって教えられています。神権指導者について、アルマはこう教えました。「聖任され……神の先見の明によって世の初めから召され、備えられていた。」⁵

ジョセフ・F・スミス大管長(1838 - 1918年)は、(ウークトドルフ管長のような)指導者について、「彼らもまた神の教会で治める者となるように初めに選ばれた、高潔で偉大な者たちの中にい[た]」ということを明らかにしました。

「まことに、彼らは生まれる前に、ほかの多くの者とともに、霊の世界において最初の教えを受け、主の定められたときに出て行って人々の霊の救いのために主のぶどう園で働く準備をしたのである。」⁶

ウークトドルフ管長の母親に、いちばん下の息子がいつの日か大管長会で奉仕する召しを受けるかもしれないと予感したことがあるかどうか尋ねることができたらと思いませんか。幼い息子を育て、自由の国で生きる道を開き、命を救ったときに彼女は何を感じたのでしょうか。このようなこともあったそうです。子供たちと公共のホールにいたとき、彼女はその建物からすぐに離れなければと感じました。その気持ちに駆り立てられ、カートを見つけると幼いディーターを乗せ、子供たちを連れて慌てて建物から離れました。間もなく建物は敵軍に破壊されました。建物にいたほとんどの人が亡くなりました。ウークトドルフ姉妹と子供たちは命を救われたのでした。

第2次世界大戦後の幼年時代、ウークトドルフ管長は空襲で爆破された廃屋で遊んだり、近くの森に捨てられていた銃や弾薬や武器を見つけたりしたことを覚えています。長年の間、絶えず付きまとう戦争のつめあとの中で、自分の国がほかの国の人々にひどい苦痛を与えたという意識を持って暮らしました。実際、管長と家族も、強圧的な独裁政治の犠牲者でした。

後に、ウークトドルフ管長は危険から生還する経験をしています。飛行機を操縦していたとき、操縦装置が正しく機能し





なくなりました。このままでは飛行機は傾いたまま飛び、墜落してしまいます。びくともしない操縦桿を動かそうとあらゆる努力を払いましたが無駄でした。教官は何度も脱出命令を出しました。しかし不屈のパイロット、ディーター・F・ワークトドルフはついに操縦桿を何とか動く状態にし、緊急着陸に成功したのです。ワークトドルフ管長は、そのような厳しい試練を乗り越えるに当たって主の御手^{みで}があったことを認めています。⁷

数字で言えば、このチェコスロバキアで生まれた子供が、家族とともに改宗し、危険に満ちた人生を生き延びて、さらには大管長会で奉仕する召しを受ける確率は限りなく無に等しかったでしょう。しかし、主は創世の以前から、この特別な人物を御存じであり、愛してこられました。そうです、彼は末日聖徒イエス・キリスト教会の指導者としての義務を果たすよう予任されていたのです。

今、ワークトドルフ管長は、神聖な召しを受けトーマス・S・モンソン大管長の傍らで奉仕しています。ヘンリー・B・アイリング管長とディーター・F・ワークトドルフ管長は主の偉大な僕^{しもべ}であり、大管長に進んで助言しています。彼らは

そうすることができるのです。この3人の管理大祭司は互いを補い合っています。教会の会員は喜んで、また感謝をもって、靈感を受けた彼らの指導に従っていくことでしよう。■

注

1. 正式名称はドイツ民主共和国
2. マラキ3：10；3ニーファイ24：10参照
3. 「証の機会」『リアホナ』2004年11月号、75参照
4. モーサヤ3：20。黙示14：6；1ニーファイ19：17；2ニーファイ26：13；モーサヤ15：28；16：1；アルマ37：4；教義と聖約133：37も参照
5. アルマ13：3
6. 教義と聖約138：55-56
7. ジェフリー・ホランド「ディーター・F・ワークトドルフ長老——新たな地平線へ」『リアホナ』2005年3月号、13参照

前ページ——

2004年10月、ともに十二使徒定員会に召されたワークトドルフ管長とデビッド・A・ベドナー長老。

上——

2008年2月4日、ソルトレーク・シティーで開かれた記者会見で発表された新しい大管長会。



歩みに信仰を……

……心に歌を

40キロの道のりを歩こうとも、
ブラジルの教会員パウロ・ツバルジは
忠実に教会に出席することをやめませんでした。

ディアドラ・M・ポールセン

わたしは、「日々によき種と」¹、あるいは「主よ、み旨のまま行かん」²とだれかが歌うのを聞いたり、また自分で歌ったりする度に、パウロ・ツバルジのことを思い出します。

ある暑い日、わたしはブラジル南部でパウロと出会いました。教会の集会はすでに終わり、集会所にほとんど人けはなく、数人の会員が廊下に座っているだけでした。当時ブラジル・クリティーバ伝道部の会長を務めていた夫は、パラナ州グアラプアーバ地方部のエドソン・ルストザ・アラウージョ会長と面接中でした。

「ポールセン姉妹、廊下に座っている、靴に泥のついた兄弟に気がつきませんでしたか。」夫の顧問として奉仕していたジェーソン・ソーサ兄弟が言いました。

ブラジル南部では多くの道路が赤土でできており、靴に泥がつくことは珍しくありませんでした。

「あの、20代後半の、やせた黒い髪の人ですか」とわたしは聞きました。

「そうです。名前はパウロ・ツバルジです。道がぬかるんで歩けないとき以外、ほぼ毎週、日曜日に教会まで歩いて来ます。15歳のときから14年もそうしているんですよ。」

「どのくらいの距離を歩くのですか。」わたしは尋ねましたが、次のような答えが返ってくるとは思いませんでした。

「40キロです。」ソーサ兄弟はあっさりと答えました。「教会に間に合うよう朝3時に家を出るんです。8時間かかりますから。」

「どうして、そんなことをするんですか。」信じられない気持ちで尋ねました。



ブラジル南部の農場で働くパウロ・ツバルジは、近所の人が福音に興味を持つよう、あらん限りの大声で賛美歌を歌いながら畑を耕し、福音の種をまいています。

「教会が真実であると信じているからですよ。」

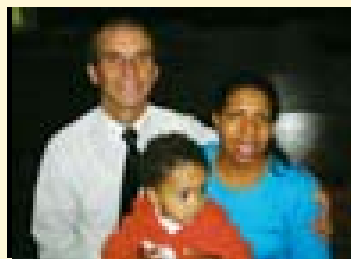
「もちろん、そうですが」と、わたしは当然の答えに少し気恥ずかしさを覚えながら言いました。「聞きたかったのは、なぜそれほど長い距離を歩かなければならないのかということです。」

ソーサ兄弟によると、パウロは田舎に住み、家族の農場を管理しているということでした。そのおかげで、心臓を悪くしている74歳の母親が、治療の受けられるグアラプアーバで暮らすことができるのです。ルストザ会長は彼女の心臓医でした。

「パウロは独りで暮らしながら畑を耕し、何頭かいる家畜の世話をしています。電気も水道ありません。いちばん近いバス停まで8キロもあって、しかも、土曜と日曜日にはそのバスもないんです。それで教会まで歩くんですよ。」ソーサ兄弟は言いました。

夫とルストザ会長が部屋に入って来ました。会長は、パウロは通常、4週間で3回は出席すると言いました。「道が通れなくなるとかぎり、パウロが欠席することはありません。日曜の夜はそのまま泊まり、月曜日にバスで帰っています。」

4回の日曜日のうち3回教会に出席するとすれば、パウロは集会に集うためだけに、1年で300時間以上をかけて1,600キロ近くを歩いていることになりま



パウロ・ツバルジとリタ・ツバルジ、息子のサウロとともに。

集うことになりま。パウロは、自宅のある農場で福音を分かち合う方法を見つけました。にこにこしながらこう話します。「馬の後にすきを付けて畑を耕しながら、これ以上出ないほど大声で賛美歌を歌うこ

とにしました。同じように畑で働く近所の人々が、歌声を聞いて何の歌かを尋ねるでしょう。この方法で福音を教えることができます。」

信仰を働かせながらパウロが続けている旅は、教会まで歩くことだけにとどまりません。年に2回、パウロは530キロを旅して、ブラジル・サンパウロ神殿に参入していました。あるときの神殿参入で、パウロは神殿職員のリタ・デ・カシア・デ・オリベイラを紹介されます。ルストザ会長夫人のオデテルストザが以前、神殿でリタと会ったことがあり、パウロは彼女からリタに手紙を書くよう勧められていたのです。

リタは都会の生活になじんでいて、友人もあり、恵まれてすぐ近くにあるワードに集っていました。しかし2003年、遠距



ランプの明かりのそばで福音を研究するパウロ。自宅のある農場は、最寄りの末日聖徒の集会所から40キロ離れている。

離のコートシップを経た二人はサンパウロ神殿で結婚し、農場で一緒に暮らすことになりました。

農場での生活にも慣れたリタは、神殿結婚の祝福に感謝しています。「いちばん大変だったのが夫を見つけることでした。そのほかのことは何とかあります。」

パウロは今でも畑を耕し、近所の人に賛美歌を歌いながら福音の種をまこうとしています。そして40キロの道のりをグアラプアーバの教会まで通っています。しかし今、その傍らにはリタと息子のサウロがいて、もう日曜日の朝早く家を出ることはありません。金曜日の夜遅く、週の最終バスに乗るのです。週末に聖徒たちと交流し、日曜日の集会に出席した後、月曜日の朝、彼らはバスで農場に帰ります。主の御旨のまま行くことで、彼らはとても幸せなのです。■

注

1. 「日々によき種と」『賛美歌』133番
2. 「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番

すべての人は、 神の形に創造されている



訪問先の姉妹たちの
必要に合った聖句や言
葉を教えてください。
その教義について証
してください。あなた

が教える人々に、感じたことや学んだこ
とを分かち合うように勧めてください。

**「神の形に創造され(る)」ことについて、
わたしたちは何を知っていますか。**

モーセ2：27—「神であるわたし
は、自分の形に人を創造した。わたし
の独り子の形に人を創造し、男と女に
創造した。」

**ゴードン・B・ヒンクレー大管長
(1910-2008年)**—「わたした
ちの肉体は神聖なものです。肉体は
神の姿形にかたどって創造されまし
た。肉体は実によくできており、神の
創造されたものの中でも傑作中の傑作
です。例えば、いかなるカメラをもつ
ても、人間の目の精巧さには及びませ
ん。また、いかなるポンプといえども、
人間の心臓ほど長期間にわたって機
能するものも、あれほどの酷使に耐
えるものもありません。目や脳はまさ
に奇跡です。……こうした器官は、体
のほかの部分や器官と同様、わたした
ちの永遠の御父である神の神聖で無
限の能力を表したもののなのです。」(『わ
たしは清く、汚れがありません』『聖徒
の道』1996年7月号, 57)

トーマス・S・モンソン大管長—
「父なる神は、わたしたちの祈りを聞く耳
と行いを見る目を持ち、わたしたちに語
りかけるための口を持っておられるの
です。そして、哀れみと愛に満ちた心を



持っておられます。神は実在の御方
です。神は生きておられます。わたした
ちは神の形にかたどって造られた、神の
子供なのです。わたしたちは神に似た
存在であり、神はわたしたちに似た御方
であられるのです。」(『主は生けりと知る』
『聖徒の道』1988年4月号, 6参照)

**自分が神の形に創造されていることを知
ると、生活にどのような違いが生じますか。**

**十二使徒定員会 リグランド・リチャ
ズ長老(1886-1983年)**—「世の
中には、自分の体は自分自身のもので
あって、自分の自由にすることができると
思っている人がたくさんいる。しかし、パ
ウロが分かりやすく説明しているように、
人の体は彼ら自身のものではない。な
ぜなら、『あなたがたは、代価を払って
買いとられた』からである。また、『もし人
が、神の宮を破壊するなら、神はその人
を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は
聖なるものであり、そして、あなたがたは
その宮なのだからである。』[1コリント
3：17] (『不思議な驚くべきわざ』313)

**十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワー
スリン長老**—「[わたしたちは、]『唯
一の、まことの神でいますあなたと、ま
た、あなたがつかわされたイエス・キリ
ストとを知る』ようにならなければなり
ません(ヨハネ17：3)。……『神を知
る』とは、神と同じように考え、神と同
じように感じ、神と同じ力を持ち、神
と同じように真理を理解し、神が行わ
れることを行うことである。神を知っ
ている者は神のようになり、神と同じ
種類の命、つまり永遠の命を持つので
ある。』……主はニーファイ人の弟子た
ちにこう教えられました。『あなたがた
はどのような人物であるべきか。まこ
とに、あなたがたに言う。わたしのよ
うでなければならない。』(3ニーファイ
27：27) (『主なる救い主』『聖徒の道』
1994年1月号, 7参照)

**前中央若い女性会長 スーザン・W・
タナー**—「皆さんは……母親や父親
から[次のように]言われたことがあり
ますか。……『神の子であることを忘れ
ないでね。それにふさわしく行動しな
くはならないのですよ。』……宣教師は胸
に名札を着けることで、……慎重深く、
さっぱりとした服装をし、礼儀正しく人
に接し、キリストの面影をその顔に受け
るよう努力[することを心に留めています。
]……わたしたちも皆、聖約によってキリ
ストの御名を受けました。主の御名がわ
たしたちの内側、つまり心の中に刻ま
れていなければなりません。わたしたち
も同様に、天の御父の子供としてふさ
わしく行動することが期待されています。
ひょっとすると、天の御父もわたした
ちをこの世に送り出すとき『自分が何
者であるかを忘れないで』とおっしゃ
ったかもしれません。」(『天の御父の
娘』『リアホナ』2007年5月号, 107
参照)

研究を深めるために、ヨブ7：17、教
義と聖約110：2-3、ジョセフ・スミス
—歴史1：17を参照。■

幸せな 家庭の レシピ

連帯感, 福音, 家族で楽しむこと——
これらの材料を混ぜて,
愛情いっぱいの家庭を作っている
スウェーデンの家族を紹介します。

教会機関誌

ポール・バンデンバーグ

奇 妙な音に目覚めると、台所から
ファルセット〔訳注——おもに男
性歌手が出す高い音色〕の甲高い
歌声が聞こえてきます。あなただったらどう
しますか。きっと、多少戸惑いながら、次の
どちらかのことを考えるでしょう。(1)「幼い妹が
台所でクッキーを探している。」または(2)「ここは
うちじゃない。」しかし、スウェーデンのカブリンゲ
に住むロンダール家の人々は少しも驚きません。それ
どころか毎週楽しみにしているのです。と言っても、楽しみ
にしているのは歌ではなく、家族が名付けた「ホテルの朝食」
なのですが。

家族のどんなところが好きかと聞かれた14歳のイザベル・
ロンダールは次のように答えてくれました。「わたしは土曜日
の朝食が大好きです。毎週お父さんが作ってくれますが、い
つもととてもおいしいんです。」すると、ロンダール家のほかの
子供たちも楽しげに、口をそろえてお父さんの料理はおいし
いと言います。

「みんなお父さんの歌声で目覚めます。」16歳のアンドレア
スが説明します。すると何人かの子供たちが歌声のまねを始
めました。子供たちも、両親のブライノルフとクリスティーナも

皆大笑いです。ロンダール家では笑い声が絶えません。続け
て彼らは、毎週土曜日の朝、歌声の後に漂ってくる新鮮な
ベーコンエッグの匂いに釣られて、家族のみんながベッドか
ら起き出してくる様子を話してくれました。同じテーブルで食



慈愛

14歳のイザベルのお気に入り
の聖句は、モロナイ書第7章45節から48節です。慈愛、つまりキリストの純粋な愛について書かれています。「特に45節が好きです」とイザベルは話します。「慈愛と愛についてのすばらしい特質がすべて書かれています。この聖句は、天の御父のみもとに戻るために最も大切なのは慈愛だということを思い出させてくれます。」

事をするからだけでなく、ただ一緒にいるだけで彼らは楽しいようです。

それから彼らは、幸せな家庭のレシピのもう一つの材料は家庭の夕べだとも話しています。しかし、いつもそうだったわけではありません。「とつても長いレッスンだけで、家庭の夕べがほとんど終わりということもありました。」18歳のクリストファーがちゃめっけのあるまなざしでお母さんを見ながら話します。

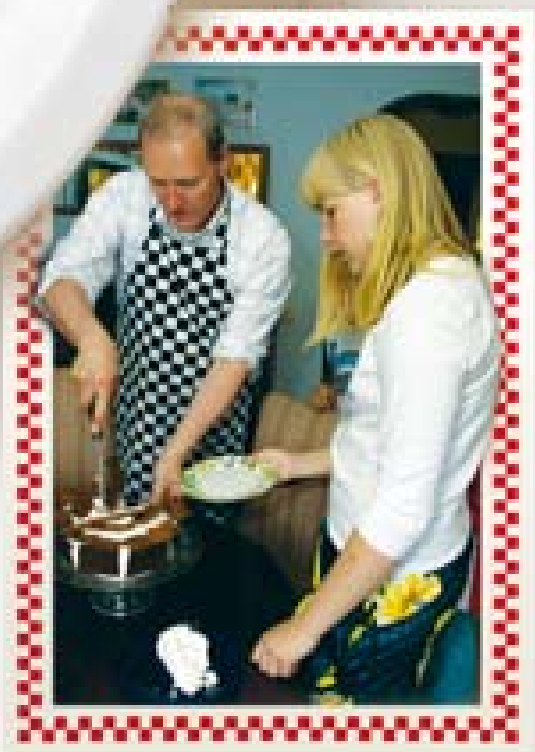
「時々、退屈で寝てしまいました。」当時まだ5歳だったアンドレアスも言っています。「でも、目が覚めるとリフレッシュメントの時間だったりするんです。」

ロンダール兄弟の説明によると、子供たちがまだまだ小さかったころ、ロンダール姉妹はいつも1時間以上のレッスンを用意していたそうです。内容も難しく、小さな子供たちは最後まで聞いていられませんでした。ロンダール家には現在、

8歳から23歳まで8人の子供がいます。いちばん上のレベッカは、伝道から帰還し、今は合衆国の大学に通っています。

ロンダール兄弟と姉妹は家庭の夕べの進め方を変えることにしました。「家族を集め、こう言いました。『さあ、何をしたい?』」とロンダール姉妹は言います。すると予想どおり、子供たちは食べたり、ゲームをしたり、賛美歌を歌ったりしたいと言いました。さらに、レッスンも嫌いではないことが分かりました。ただし、もう少し短ければの話ですが。ロンダール兄弟はそれまでの家庭の夕べの進め方について、材料は合っていたが分量が間違っていたという言い方で上手に表現しています。「楽しい事柄に目を向けるべきだと気づきました。」

ロンダール姉妹は、月曜日の夜がいつもとは違うという雰囲気を出すため、普段より豪華な夕食を作ることにしました。家庭の夕べでは、たくさんゲームと歌を取り入れるようにしました。また、レッスンは短縮し、10分くらいにし



ロンダール家族の写真／ポール・ハンデンバク
ほかの写真／シモン・ルーク



目隠し指揮者の遊び方

12歳のジョセフィンが大好きな、家庭の夕べのゲームがあります。簡単で、とても楽しいゲームです。みんなで輪になります。一人が「指揮者」になり、目隠しをして輪の中央で立つか、または座ります。指揮者は右か左を指差し、輪を作っている人たちは、それに合わせて右か左に回ります。指揮者が指の向きを変えたら、輪の人たちも回る方向を変えます。指揮者が手を挙げたら、輪の人たちはその場で止まります。指揮者は目隠しをしたまま輪のどこかを指さします。指をさされた人は声を出します。大声、ささやき声、おもしろい声など、どんな声でもかまいません。指揮者がだれの声かを当てたら、その人が次の指揮者になり、間違っていたら同じ指揮者のままでゲームを続けます。

ました。今度はバランスの取れた分量です。「子供たちは月曜の夜を楽しみにするようになりました。みんな家庭の夕べが大好きになりました」とクリスティーナは話します。

子供たちが大きくなった今、レッスンは長く、中身も濃いものになりました。20歳のロザンナはこのように言います。「わたしたちも今ではとても良いレッスンができるようになりました。皆、福音やいろいろな事柄について話し合うのが大好きです。とてもたくさん意見や考え方があるので楽しいのです。話したい事柄をテーマにしているので、さらに楽しくなりました。」しかし、音楽やゲーム、リフレッシュメントは今でもしっかり家庭の夕べの予定に入っています。

「いちばん好きなのは、リフレッシュメントとゲームよ」と12歳のジョセフィンが言います。

「もちろん、リフレッシュメントとゲームが最高だね」とクリストファーもうなずきます。

「わたしは歌と音楽がいちばんだと思うわ。」ロザンナは言います。

「レッスンを好き」とイザベルが控えめに言いました。ほかの子供たちがすぐさまイザベルをひやかします。もちろん愛情を込めてですが、「ほんとうよ」と言うイザベルの顔は真剣です。

「家庭の夕べのすべてが好きです」と言うのはアンドレアスです。「家庭の夕べがとても楽しいのは、レッスンや歌、ゲーム、リフレッシュメントなど全部がそろっているからです。そのどれが欠けても、何か物足りなくなると思います。」

ロンダール姉妹はこう言います。「わたしは、夫とわたしの出番がないときの家庭の夕べが大好きです。わたしたちは座っているだけで、子供たちが司会とレッスンとリフレッシュメント



の用意をします。子供たちが全部してくれる、そういう家庭の夕べが最高ですね。」

ロンダール家の幸せな家庭のレシピに欠かせないもう一つの材料は、毎週日曜日に教会の後で開かれる家族会議です。家族会議では次の家庭の夕べでの担当を確認します。割り当ては順番で行うため、レッスン、リフレッシュメント、聖文係など、家族みんながどの割り当てでもできるようになっています。また、交代で行っている家事の分担や、家族一人一人の状況についても話し合っています。



家族が集まるのは日曜日と月曜日だけではありません。子供たちの中で最年少の二人、10歳のサムエルと8歳のヨハネスは、家族みんなでの外出やピクニックが好きだと言います。お父さんも賛成してこう言います。「みんな泳ぎに行くのが好きで、湖や海、川などどこへでも行きます。」また、家族のほとんどは一つかそれ以上の楽器ができるので、一緒になっ



家族の連帯感

「家族はともに祈るべきです。朝に晩にひざまずき、祝福への感謝をささげ、家族として抱える問題について祈るのです。」

家族はともに礼拝し、教会の集会に参加し、ともに霊的な事柄を話し合うべきです。

家族はともに研究し学ぶべきです。……

家族はともに働くべきです。……また、家族はともに遊び、家族であることが楽しい思い出となるようにするべきです。

家族はともに話し合うべきです。家族の問題、また一人一人の問題について話し合うのです。

家族はともに食事をするべきです。食事の時間は、家族が集まり自由に話のできる時間です。」

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老
"Parental Leadership in the Family,"
Ensign, 1985年6月号, 10-11

で演奏し、歌います。

みんなが一つになっているので、ロンダール家の人々は、家族であると同時に親友同士です。互いに愛し、頼り、強め合っています。これほど長い時間をともに過ごしたいと思うのはそのためでしょう。

ロンダール家の人々は互いを強め合いながら、ワードやステーキにとっても力となっています。ロンダール兄弟はこう語ります。「ステーキのあらゆる活動と、青少年のための活動やカンファレンスのすべてに参加しています。子供たちにはステーキとワードで行われるすべての集会や活動に参加するよう勧めています。ここではワードがそれほど大きくないので、青少年ができるだけ友情を深められるよう、ステーキの活動をたくさん行っています。」年長の子供たちはセミナーにも参加します。父親と母親の両方がセミナーの教師経験者という家族もあります。もちろん、皆、教会のクラスや定員会にも参加しています。

このような材料を念入りに混ぜ合わせることで、ロンダール家はとても仲の良い家族になりました。末っ子からいちばん上まで、子供たち全員と両親が愛し合っているのが大好きです。海水浴から家庭の夕べでの目隠し指揮者まで(前ページ左の「目隠し指揮者の遊び方」を参照)、一緒にたくさんの活動をしています。「家族であることの中で大好きなのは音楽です」とロンダール姉妹は話します。「我が家は音楽一家です。歌が好きでよく歌っています。」

そうです。ロンダール家は皆、歌うのが大好きなのです。また、聞くのも好きです。特に、土曜の朝に台所から聞こえてくる調子外れのファルセットが。■



導きを 与える 神の御手



自分から主に
そうしていただける
ようにするなら、
主は御自身の
目的に合わせて、
皆さんの人生を
形作ってくださいます。
そのようにするなら、
大きな祝福が
もたらされます。

七十人
ウォルフガング・H・ポール長老

皆さんは将来の人生を思い描けますか。例えば10年後か20年後、どのような仕事に就いているでしょうか。どのような教会の召しを受けているでしょうか。どのような家族を築いているでしょうか。

これらすべての質問に、わたしは確信をもってこう答えることができます。「まったく分かりません。」しかし、同じように確信を持つことがあります。それは、神は確かに御存じであるということです。主を信頼し、自分自身を主の手にゆだねるなら、主はわたしたちにすばらしい経験や機会を与え、予想もしていなかった道へと導いてくださるでしょう。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5-6)

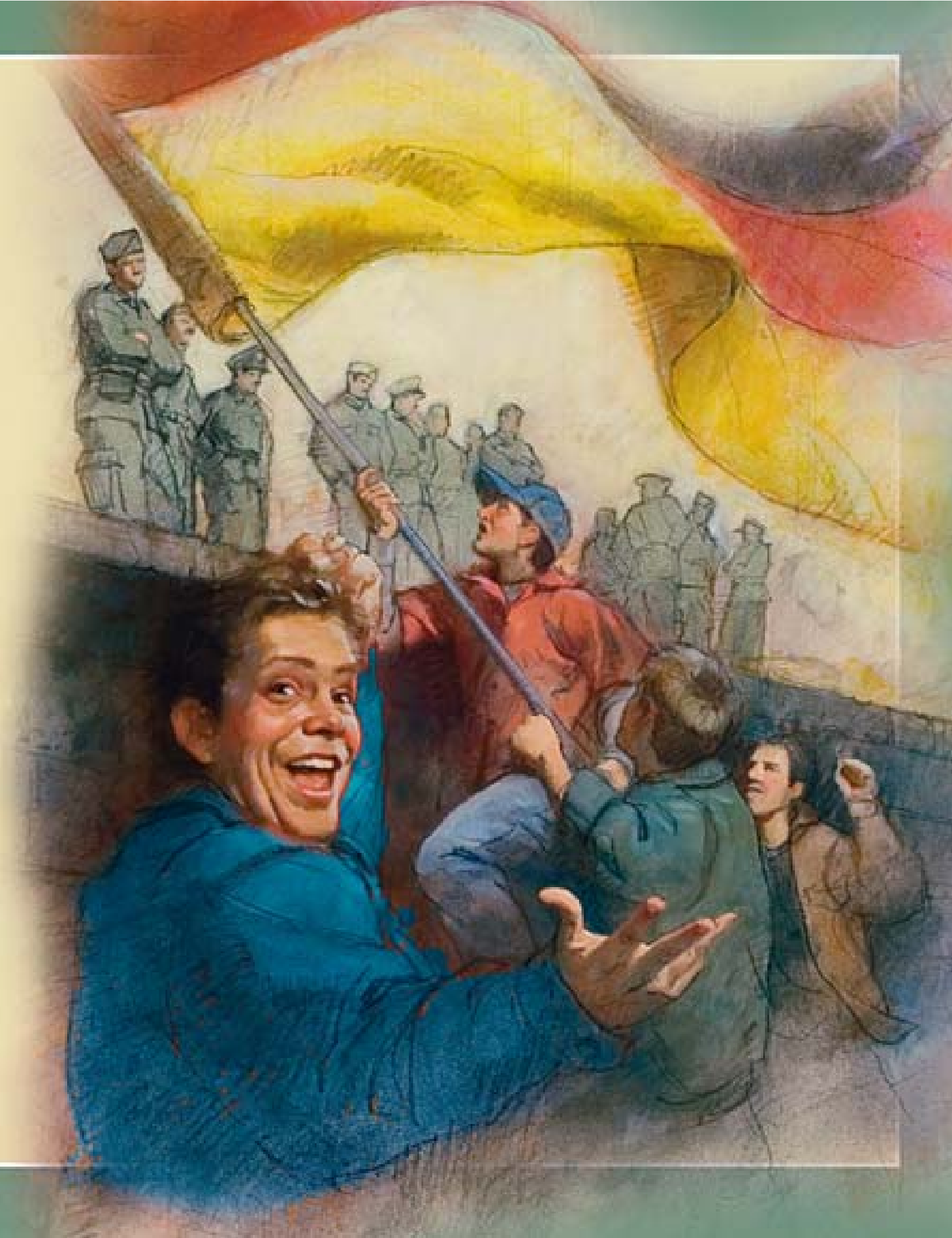
神は国々の行く末をも導く力をお持ちです。その神が皆さんのことを大切に思い、皆さん一人一人に祝福を与えることを望んでおられます。皆さんは神の子供なのです。神が御手を

もって国々を、そして神の子供一人一人を導かれるのを、わたしはこの目で見、また実際に体験してきました。

国々への祝福

わたしが子供のころ、ドイツは二つに分かれていました。わたしが住んでいた西側には自由と民主主義があり、国は発展していました。東側には共産主義体制が敷かれ、ソビエト連邦と同盟関係にありました。東と西を隔てる国境には壁が築かれ、有刺鉄線や地雷が設置され、機関銃で武装した警備隊員が常駐する塔が建っていました。国境の先の東側に残された多くの忠実な聖徒たちは、礼拝の自由と神殿の祝福を切望していました。

教会員であるわたしたちは、いつの日か預言が成就し、すべての国々に福音が伝えられることを知っていました(マタイ24:14参照)。しかし、強大な軍事力が衰える気配はなく、政府の方針が変わる兆しもなかったため、大規模な国際紛争が世界規模の大災害が起これなければ、東ドイツやポーランド、そしてソビエトが支配するほかの国々に、必要な変化がもたらされることはないのではと心配していました。



預言者に語り、
国々の
行く末をも
変える力をお持ちの神と
同じ神は、
御自身の御霊を通して
皆さんの心に
語りかけることを
強く望んでおられます。
主は皆さんを
進むべき道へと導き、
皆さんが自分の力で
努力するよりも、
はるかに優れた人間に
なれるよう
助けてくださいます。

しかし、主は御存じでした。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は、すべての教会員に、そうした国々の国境が開かれるように祈ることを勧めました。それからゆっくりと、しかし確実に奇跡が起こり始めました。まず、東ドイツ政府が国内に神殿を建設することを許可し、1985年にドイツ・フライベルク神殿が奉獻されました。そして1988年、教会指導者からの請願を受け、東ドイツ政府は、宣教師の東ドイツへの入国、および伝道を目的とした自国の宣教師の出国に許可を与えることに同意しました。1989年11月、東ドイツ政府はベルリンの壁を開放し、その後間もなく、壁は崩壊しました。その後、政府は倒れ、ドイツは民主主義を掲げる政府の下に統一を果たしました。

歴史家たちは、これらのすばらしい出来事の要因として多くの事柄を挙げています。しかし、それらすべての背後で、主の目的が果たされるために、主がこれらの国々の運命を導かれたとわたしは確信しています。

人生での導き

国々の運命を導かれるその神が、皆さんにも個人的に関心を寄せておられます。皆さんとほかの人々に祝福を与えるために、主は皆さんの人生を形作り、導かれます。それは、皆さんが主にそのようにしていただくことすれば実際に起こるのです。わたしはこれがほんとうだと知っています。なぜなら、主はわたしの人生に影響を及ぼし、主を第一にするならば、必要なほかのすべての事柄において祝福を与えるという約束を守ってくださったからです。これまでの人生で、このようなことを数多く見してきました。

わたしたちは、6万人が住む町で唯一の末日聖徒の家族として暮らしていました。福音に従って生活するよう最善を尽くしました。わたしはしばしば御霊を感じ、教会が真実であるかを疑ったことはありませんでした。しかし兵役に就いていたころ、モルモン書が真実であるということ、どうしても自分自身で知りたくな

りました。そこで独りになれる所へ行き、モルモン書にある勧めのとおりに行動しました(モロナイ10:4-5参照)。わたしは神に尋ねたのです。そして確証を得ました。それは、ぬくもり、慰め、平安、大きな幸福感といった霊的な感情でした。この気持ちを忘れることは決してないでしょう。

兵役を終えたわたしは、西ドイツ政府の軍事管理教育を受けました。それはとても厳しいものでしたが、財務、不動産、法務など、幅広い分野の知識を得ました。わたしはまた、地方部会長会の一員としての召しを受けていました。日曜日、学友たちは忙しく勉強していましたが、わたしは教会の割り当てを果たしたり、家族と一緒に過ごしたりしていました。大変でしたが、主の約束は確かであり、信頼できるものです。わたしの成績は、ほかのどの学友にも引けを取りませんでした。

卒業後の8年間は、政府職員として働きました。終身雇用と、十分な額の年金が保証されていました。安定した人生のルールが敷かれているように思えました。そんなとき、教会の管理ビショッププリックから、フランクフルトに移り、ヨーロッパ地域の代表として働いてみないかと尋ねられました。引き受ければ、安定した仕事と将来の年金をあきらめなければなりません。しかし妻と一緒に祈ると、



そうすることが正しいと感じました。そのときを境にわたしの人生は大きく変わりましたが、たくさんの祝福を受けてきました。

政府から受けた訓練は、新しい責任で必要な数多くの業務を果たす備えになりました。また、この仕事に就いたことで、後に伝道部会長として奉仕することができました。もし、そのときまで政府職員として働いていたら、この召しを受けることは決して許可されなかったでしょう。

これらの経験に深く感謝しています。自慢するつもりでこの話を紹介したのではありません。自分から主にそうしていたできるようにするなら、主は御自身の目的に合わせて、皆さんの人生を形作ってくださるということを伝えたかったのです。そのようにするなら、大きな祝福がもたらされます。約束します。主は、職業といった大きな事柄について皆さんを祝福されるだけではありません。祈りを通して主に心を向けるなら、毎日の

小さな課題や目標についても祝福を与えてくださいます。わたしはこれまで、何度もそのような経験をしてきました。

日々を受ける祝福

あるとき、支部会長として、^{じゅうぶん} 什分の一申告報告書を作成していました。よく晴れた冬の日で、

妻がわたしと散歩に出かけるのを待っていました。政府職員時代に財務に精通していたわたしにとっては、何でもない作業でした。しかし、合計額がどうしても合いません。何度もやり直してみましたが数字は合わず、いらいらしてしまいました。わたしは、天の御父に助けを求めました。

ひざまずいて祈った後も、状況は何も変わっていませんでした。しかし、献金領収書のファイルを開けて、ある箇所を見ているようにという促しを感じました。当時、領収書は、台紙にまとめてはりつけていました。すると、はりついて1枚のように見えていた2枚の領収書を見つけました。これで問題が解決したのです。

最近ではこんなことがありました。ありふれた経験ですが、皆さんも似たような問題に直面したことがあるかもしれません。自分のコンピューター用に、新しい高速モデムを買いました。説明書のとおりすべての配線を終えたものの、モデムは動きません。説明書にある「困ったときは」の指示に従ったり、すべての配線をやり直したり、メーカーのヘルプデスクに電話をしたりと手を尽くしましたが、それでも動きません。購入した店に持ち込んで検査までしてもらいましたが、おかしなところはないとのことでした。仕方なくモデムを家に持ち帰りました。ところがそのとき、祈ることを思い出しました。それまでにしていなかったこと、つまり祈りをささげたのです。するとモデムが動きだしました。今も動いています。

これまで、国そのものを動かすような事から、わたしの人生を大きく変える経験までいろいろな出来事を紹介しました。その中には、大きな視野で見ればとてもささいな出来事もあります。しかし、これこそがわたしの伝えたいメッセージ

なのです。預言者に語り、国々の行く末をも変える力をお持ちの神と同じ神は、御自身の御霊を通して皆さんの心に語りかけることを強く望んでおられます。主は皆さんを進むべき道へと導き、皆さんが自分の力で努力するよりも、はるかに優れた人間になれるよう助けてくださいます。主に信頼し、頼るならば、主は日々の生活で起こる問題を解決できるよう助けを与えてくださいます。

主は皆さんを御存じです。皆さんを愛しておられます。そして主の約束は確かです。■



今がその

ウクライナに住む若い末日聖徒は、
改宗するとすぐに、教会で指導者として奉仕するようになります。

ジャネッサ・クロワード

改宗者しかいない教会の会員であるとはどういうことか想像してみてください。宣教師はまだこの地域に来て数年しかたっていません。そしてあなたは17歳になると、ローレルの会長ではなく、初等協会の会長に召されるのです。

アクサナ・フェルサノワにとって、教会はまさにそのような所です。アクサナの住むウクライナのフメリニツキーは、2006年に福音を宣べ伝える地として開かれました。彼女はこの町で最初に改宗した教会員の一人です。バプテスマを受けてからまだ日も浅いうちに、アクサナは数えるほどしか会員が

いないこの町の教会で初等協会の会長に召されました。

アクサナは、福音の根付き始めたウクライナで教会に集う10代の若者の典型です。ウクライナの教会の青少年は、福音が広がりつつあるこの地域で、献身的に奉仕し、熱心に真理を伝えています。フメリニツキーのような地域では、若い改宗者が元気と明るさ、そして福音に対する揺るぎない証の源になり、教会を強めています。

福音を待ち望み

アクサナにはイエス・キリストについての証がありました。しかし、回復されたキリストの福音について証を得たのは、友達からモルモン書もらった後のことです。

「イエス・キリストがニーファイ人に語られたところを読んでみると、深い感動を覚えました。イエス・キリストがわたしを愛しておられることが分かりました。わたしは祈り、イエスが

救い主であられ、モルモン書が真実であるという証を得ました」とアクサナは語ります。

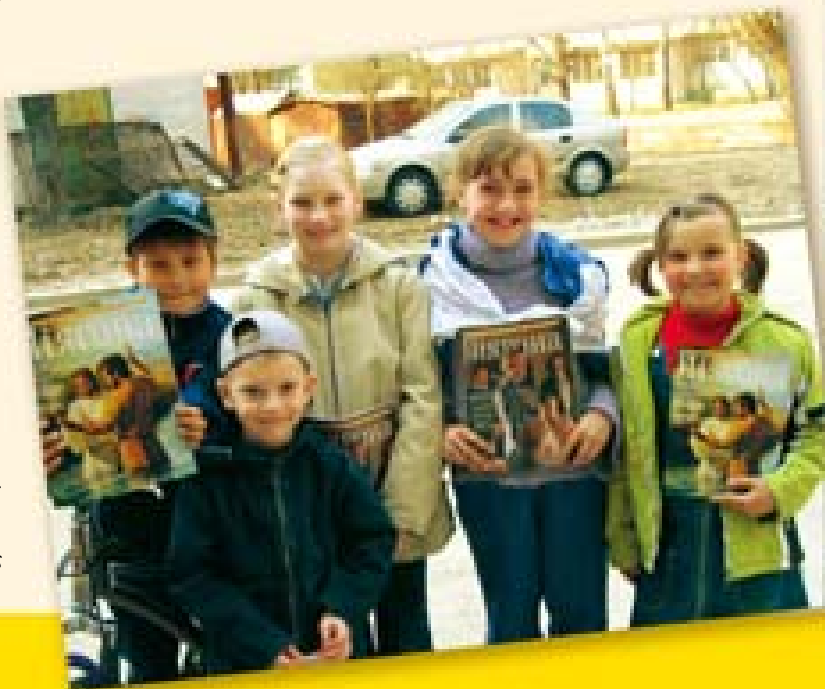
「もしジョセフ・スミスがモルモン書を翻訳し、モルモン書が真実であるなら、ジョセフ・スミスは間違いなく神の預言者であり、イエス・キリストの福音を回復したのです。わたしにはそれが分かりました。」

アクサナの友達は福音についてさらに教えてくれました。当時、フメリニツキーにはまだ宣教師がいなかったからです。4年にわたって福音を学び、できるかぎり福音の原則に従って生活しながら、宣教師がやって来るのを待っていました。

2006年3月。ついに宣教師がやって来ました。アクサナと友達のサーシャ・クルバトフは、フメリニツキーで最初にバプテスマを受けた教会員です。

初めてモルモン書を手にしたとき、サーシャはまだ14歳でした。別の町で教会に入った姉たちからもらったのです。

サーシャはこう話します。「姉たちは、14歳だったわたしに、



時



ジョセフ・スミスが最初の示現を受けたときも14歳だったと何度も話しました。ジョセフは若くともとても祝福されたので、ほくも同じように祝福を受けることができると話してくれました。」

そこでサーシャは読み始めましたが、ニーファイ第二書にあるイザヤの預言のところで挫折してしまいました。1年後に再び読み始めましたが、歴史の読み物と考えていたため、真実かどうか知りたいとは思っていませんでした。

しかし3度目には、サーシャは歴史としてではなく、神の業の記録として読むようになりました。

「読んでいると真実だと思いましたが、まだ強い証がありませんでした」とサーシャは素直な気持ちを話します。「宣教師と話したいと思いました。」

数年後にやって来た長老たちは、サーシャの知りたかった質問にすべて答え、バプテスマと確認の儀式を受ける備えができるように助けてくれました。

サーシャは次のように言っています。「バプテスマの水に足を踏み入ると、あらゆる疑問が消え去りました。ジョセフ・スミスが預言者であり、この福音が真実であると分かりました。この日からまったく違った人生を歩むことになることになっていましたが、不安はありませんでした」

確かに、サーシャは違った人生を歩んでいます。ホームティーチャーの責任を果たしながら、神権を尊んで大いなるものとし、主の王国で仕える方法を学んでいます。

バプテスマから1年もたたないうちに、サーシャは自分の母親と祖父にバプテスマを施しました。今では家族全員が教会員です。今ではほかの人々に福音を伝えたいと胸を躍らせています。

「福音を宣べ伝え、ほかの人を神のもとに導けるように、伝道に出る準備をしています。主の業は必ず進んで行きます。」

前ページ——

初等協会で教えるのが大好きだと語る改宗者のアクサナ・フェルサノフ。

『リアホナ』を手に持つチェルニギフの子供たち。

左——

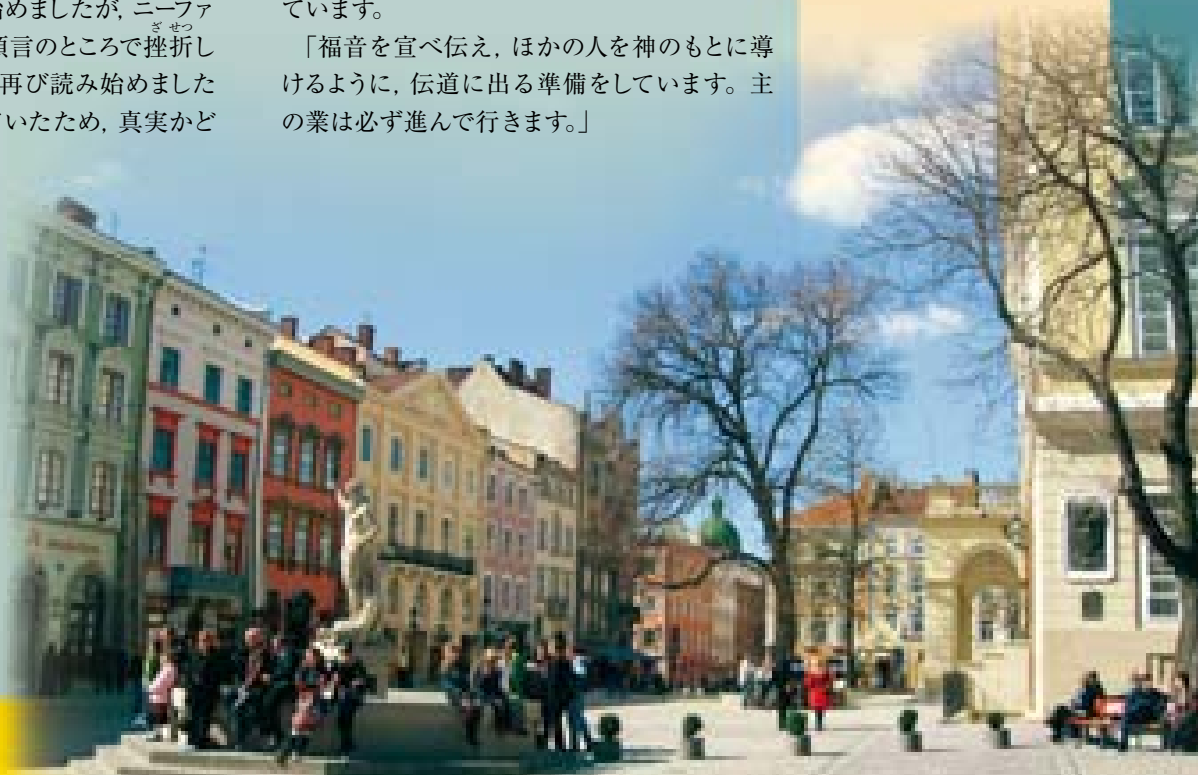
家族に福音を伝え、今はロシア・

エカテリブルク伝道部での伝道に備える

サーシャ・クルバトフ。

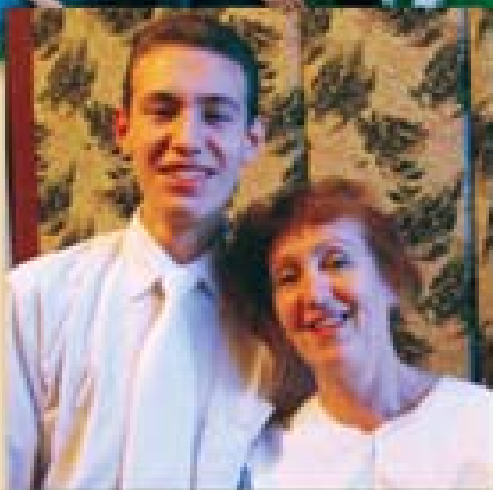
下——

リビフの中心街。





上—
16歳でバプテスマを受けた
ミーシャは、
確認の儀式を受けたときの
気持ちについて
こう話しています。
「頭の上に手が置かれたとき、
力が注がれるのを
感じました。
すばらしい気持ちでした。」



右—
半年先に改宗した
息子のミーシャから
バプテスマを受けたオルガ。
 下—
オルガのバプテスマ会を
準備した宣教師、
支部の会員とオルガの家族。
 次ページ—
支部の伝道主任と
書記の責任を
喜んで果たす
ユーリ・ポイナロビッチ。

家族を導く

ミーシャ・スホソフは、チェルニギフの町で宣教師の教える英会話クラスに出席していました。これがきっかけとなって回復されたイエスキリストの福音に導かれるとは思っていませんでしたが、数か月後、それは現実となります。

ミーシャは、宣教師と英語を学んでいるときの雰囲気が好きでした。一緒に教会の集会に出席するという誘いをようやく受け入れ、教会の集会に出てみると、驚いたことに英語を学ぶときと同じ良い雰囲気を感じたのです。

やがてミーシャは、長老の一人から、自分で正しいと知っていること、つまりバプテスマを受けるように勧められます。

しかしミーシャは、それが家族の伝統を破ることになること、そのためには大きな勇気が要るということも分かっ

た。ウクライナには有力な教会があり、国民のほとんどはその教会の会員として一生を過ごすのです。ミーシャの家族も例外ではありません。

母親はバプテスマを受けるのを数年待つようにと言いました。そのため、ミーシャは16歳になるまで待つことにしました。その間も教会に毎週通い、支部の伴奏者として奉仕するようになりました。

「ほかに弾ける人がいなかったのので、日曜日には必ず教会で奉仕する必要がありました。そのおかげで毎週日曜日に教会に来ることができました」とミーシャは話します。

待ちに待った日がやって来ました。ミーシャは2006年7月1日にデスナ川でバプテスマを受けました。しかしこのとき、家族が次々とミーシャの後に続くことになるとは夢にも思いませんでした。

母親のオルガは、息子が見つけた新しい宗教について深く知りたいと思い、教会に通い始めました。毎週のように来るので、支部会長はミーシャを音楽指揮者に召すことができるよう、オルガに聖餐会せいさんの伴奏をお願いするにしました。



教会員の証、そして息子の証を半年にわたって聞いたオルガは、自分の証を持つようになりました。2006年12月、オルガはミーシャからバプテスマを受けました。

オルガは今も毎週オルガンを弾いています。17歳になったミーシャは支部宣教師として、また聖餐会の指揮者として奉仕しながら、支部会長会を助けています。

「教会から必要とされているのが分かります。奉仕する機会にとっても感謝しています。人々を助けるとき、教会はわたしを助けてくれます」とミーシャは話しています。

信仰を見いだす

ウクライナの西部にはリビフという町があります。ユーリ・ボイナロビッチと彼の家族がこの町で真理を探し始めたとき、ユーリはまだ10歳でした。いろいろな教会に足を運んでいるうちに何年かがたちました。あるとき、ユーリのおじが家にやって来て、末日聖徒イエス・キリスト教会の支部に来てみるように誘ってくれました。ユーリの両親はすぐにバプテスマと確認の儀式を受けました。

「最初、わたしは行きませんでした」とユーリは話します。「自分で探そうと思っていたんです。」



しかし、この教会が真実だと知ったユーリの両親はあきらめませんでした。ユーリを英会話クラスと青少年の活動に誘いました。日曜日の集会にも来てみないかと勧めました。最後には宣教師が直接、英会話クラスに誘いに来ました。

「宣教師の誘いは断れませんでした」と言うユーリは英会話に参加しました。教会に行くようになり、ついには彼もバプテスマを受けました。

「あの日以来、たくさんの経験をしました。証を得て人格を磨いたおかげで、今の自分があります」とユーリは話します。

「自分で悪いことを選んだ結果、大変な思いをしている人をよく見かけます。誘惑や同年代の友達からの圧力もあるので、正しい選択をするのが難しいときもあります。それでも、あきらめてはいけません。従順でいるなら、祝福は後からやって来ます。」

17歳になったユーリは今、リビフの支部で伝道主任と書記として奉仕しています。

「教会と教会から受けたすべてのことに心から感謝しています。この教会が大好きです。鉄の棒につかまり、決して放さないよう皆に勧めます。」■



『リアホナ』発行1年前――

企画ができ上がる。記事を選定、執筆する。

発行10か月前――

編集者の職員、補助組織会長会、中央幹部などが執筆した記事を編集する。
読者からの投稿もこのときに編集する。

教 会機関誌がどのようにできる
のだろうかと思ったことはあ
りますか。いつも手にしている
機関誌は、だれがどのように作っ
ているのでしょうか。

教会機関誌の編集者と一緒に、制作
現場をのぞいてみましょう。

皆さんのもとにこの7月号が届くころ、
その1年後に発行される機関誌の企画
がもう始まっています。編集者は、何人かの七十人からの指
示に従って企画を進めていきます。七十人は、会員を強める
ために採り上げるべきテーマについて十二使徒定員会と大
管長会から助言を受けながら指示を与えています。記事は
中央幹部の助言の下に選ばれ、あるいは執筆されています。

教会機関誌

次号に掲載する記事について話し合う

『リアホナ』と『エンサイン』(Ensign)の編集者たち

教会機関誌の
編集者は通常、
大学で学位を取得している。
ジャーナリズムか英語を
専攻している場合が最も多く、
ほとんどが数年間の執筆、
編集、出版経験を積んでいる。

発行9か月前――

割り当てを受けた委員会と中央幹部が
記事の内容をチェックする。

発行8か月前――

記事の掲載順が決まる。(『フレンド』『ニューエラ』『エンサイン』の掲載順が決まるのは
その2、3か月後。)

関誌ができるまで

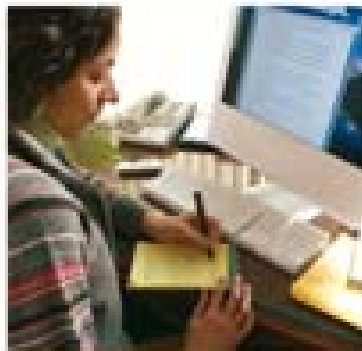
機関誌の記事となるおもな4つの分野



預言者、そのほかの中央幹部、教会指導者による記事。彼らの説教や文章が記事になります。



七十人や補助組織の会長会による記事。教会の学習課程を補足するために書かれます。



教会機関誌編集者による記事。あるテーマについて調査した後、または末日聖徒を訪問して記事を書きます。



読者である皆さんが書く記事。皆さんの投稿により、世界中の末日聖徒の声を機関誌に載せることができます。

企画する

機関誌の企画はいつも、まず『リアホナ』から始まります。『リアホナ』は最大で51言語に翻訳され、そのうち21言語では毎月発行されています。購読者が比較的少ない言語では、年に4回から6回発行されます。最も購読者数が少ない言語では、年に1回から3回の頻度で発行されています。

『リアホナ』には、成人、青少年、子供向けの記事が掲載されるほか、それぞれの地域の会員向けに特化したニュースなどを盛り込んだローカルページがあります。

教会指導者は、『リアホナ』の掲載内容が、英語でのみ発行している教会機関誌、『エンサイン』(Ensign)、『ニューエラ』(New Era)、『フレンド』(Friend)の内容と可能なかぎり同じになるよう指示しています。毎月の『リアホナ』を企画する際、編集者は世界中の会員にとってどのような記事が最も必要とされているかを祈りによって決めるよう努めています。選ばれた記事は教科課程部の顧問を務める中央幹部によってチェックされます。

発行7, 8か月前——

グラフィックデザインの担当者が記事のデザインとレイアウトを決める。

イラストレーターやカメラマンに写真撮影や挿絵制作などを依頼する。

読者をよく知る

成人、青少年、子供向けの記事を執筆し、編集する職員は、読者の基本的な違いを念頭に置かなければなりません。子供向けの記事を制作する職員は、6歳から12歳までの間に子供の知的能力が大きく変わり、感情も発達することを知っています。編集者は、10代の読者が成長するときにも同じ変化が起こることを理解しています。大人向けの記事を作る職員は、読者が年齢、世代、結婚歴によって様々であることを忘れないよう努めています。

さらに、世界中の読者の必要にこたえるという課題も加わるため、作業が気の遠くなるほど難しく思えるときもあります。一つの号で読者全員の必要を満たすことは不可能ですが、年間を通して、様々な世代や年齢層にあるすべての読者の役に立ち、靈感を与える記事を提供できるよう努めています。

グラフィックデザインと制作



『リアホナ』と『エンサイン』の編集者が、次号にどのような記事を書けるかを話し合っています。

デザイン担当者は、記事にある霊的な原則が読者によく伝わるような構成や挿絵、写真を選びます。この写真では、『リアホナ』のアートディレクターが編集担当者やデザイン担当者にレイアウト案を見せています。

記事をレイアウトするグラフィックデザイナーは、必要に応じてプロの芸術家や写真家に挿絵や写真撮影を依頼します。

本になるまで

機関誌担当の職員は常に、数か月先の複数の機関誌の準備に携わっています。立案、校正、翌月の発行に向けた印刷など、様々な段階の作業が同時進行で行われます。(英語でのみ出版される機関誌や、ほとんどの言語の『リアホナ』は、ユタ州ソルトレーク・シティーにある、教会の印刷センターで印刷されています。)記事の執筆と編集は、各号の出版予定日の約8か月前に完了します。その後3, 4か月のうちに教会機関誌に掲載しなければならない出来事があった場合、予定の記事を差し替えて、代わりに新しい記事を書けることもあります。

すべての教会機関誌は、複数の工程で内容のチェックを受けます。何人かの七十人を含む担当者が、編集の終わった記事の内容を読み、チェックします。記事が承認されると、グラフィックデザインを担当する職員が記事のレイアウトを作ります。既存の写真や挿絵などを利

用することもあれば、新たな写真撮影や挿絵制作を依頼することもあります。様々な言語で出版される『リアホナ』の場合、翻訳後の文章量が増えることがあるため、記事は余白を含めてレイアウトされています。レイアウトが終わると、記事は七十人の会員と一人以上の使徒によってチェックされます。

機関誌の制作工程には、『リアホナ』の記事を翻訳するおよそ1か月の期間も含まれています。翻訳者は世界中に住む教会員です。彼らは電子メールなどを使って教会本部と『リアホナ』の記事のやり取りをしています。〔訳注——日本語の場合、翻訳のチェック、校正、レイアウト、印刷などは日本国内で行っています。〕

発行6か月前——

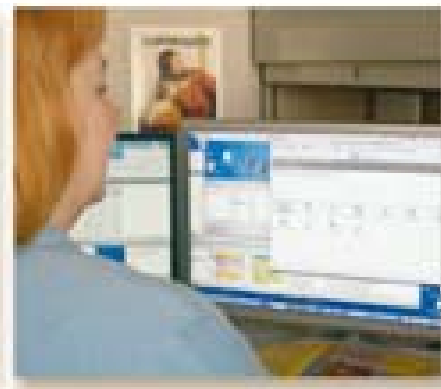
数人の中央幹部が『リアホナ』のレイアウトをチェックする。
記事を翻訳者に送る。

発行6か月前——

印刷準備のため、英語版『リアホナ』の電子原稿を製版担当の職員に送る。
ほかの言語については、翻訳とレイアウトの終了を待って製版に入る。

右——制作アート担当者は、電子メールを使って世界中の翻訳者とやり取りをしている。

左——『リアホナ』の発行言語数は51に上る。
言語ごとにコンピューターでレイアウトを作り、校正のチェックをしなければならない。



デザイン担当者は英語で記事の電子レイアウトを作る。
制作アート担当者は後日、翻訳文を用いて再レイアウトを行う。

教会機関誌の

デザイン担当者は通常、
大学を卒業した後、
デザインスタジオで
数年の経験を積み、
複数のコンピューター
デザインプログラムや
制作プログラムを扱う技能を
持っている。



発行2か月前—

ユタ州ソルトレーク・シティの教会印刷センターで印刷が始まる。
『フレンド』『ニューエラ』『エンサイン』は『リアホナ』の後で印刷する。

発行1, 2か月前—

幾つかの言語の『リアホナ』はそれぞれの国で印刷される(訳注—日本も
そうした国の一つ)。

ソルトレーク・シティにある
教会印刷センターの輪転印刷
機は、8ページから64ページ
までの両面印刷ができるほ
か、印刷されたページを裁断
して「折り丁」(複数のページを
印刷した大きな1枚の紙を折
り、本の形にしたもの)にす
ることができる。印刷能力は平
均で1時間に3万枚。職員は
4人のチームでシフトを組み、
月曜日から土曜日まで24時
間体制で作業を行っている。

16ページの折り丁を広げ、
「見当合わせ」(印刷版がまっ
すぐに並んでいるかなどを確
認する作業)と色の確認をす
る印刷担当者。印刷機は機関
誌で使われるすべての色を、
シアン、マゼンタ、黄、黒のわ
ずか4色を組み合わせるこ
とで作っている。

輪転印刷機が印刷するロール紙の重さは1,270キロ、長さは約24キロに及ぶ。『エンサイ
ン』2008年6月号では、このロール紙を105本、つまり長さ約2,560キロの紙を使用した。

下の写真は、印刷された紙を乾燥させているところ。

印刷面がぼやけているように写っているのは、
紙面が高速で動いているため。

教会印刷センターの
印刷担当者は
少なくとも5年以上の
経験を積んでおり、
半年から1年をかけて
グラフィックアートの
基礎訓練コースを
修了している。

『リアホナ』を読む言語(2008年現在)

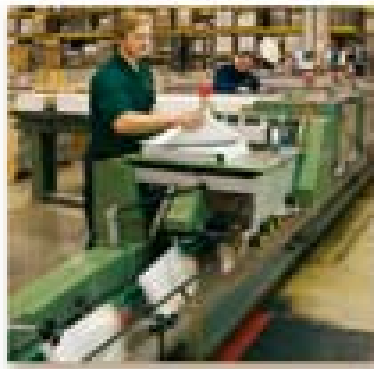
アイスランド語	キリバス語	中国語	フランス語
アルバニア語	クロアチア語	テルグ語	ブルガリア語
アルメニア語	サモア語	デンマーク語	ベトナム語
イタリア語	シンハラ語	ドイツ語	ポーランド語
インドネシア語	スウェーデン語	トンガ語	ポルトガル語
ウクライナ語	スペイン語	日本語	マーシャル語
ウルドゥー語	スロベニア語	ノルウェー語	マラガシー語
英語	セブアノ語	ハイチ語	モンゴル語
エストニア語	タイ語	ハンガリー語	ラトビア語
オランダ語	タガログ語	ビスラマ語	リトアニア語
韓国語	タヒチ語	ヒンディー語	ルーマニア語
カンボジア語	タミル語	フィジー語	ロシア語
ギリシャ語	チェコ語	フィンランド語	

発行1, 2か月前—

機関誌の印刷、梱包、配送が始まる。ソルトレーク・シティーから最も遠い地域を優先して発送する。

多くの国では地元の郵便サービスを通して購読者に配達する。それ以外の国ではワードや支部を通して配る。

印刷と配送



印刷された折り丁は、ページ順にそろえて表紙を加え、「中とじ」をする（ステーブルで留める）機械を通ります。1冊ごとに余分な紙を切り落として形を整えます。



完成した機関誌はソルトレーク・シティーの教会中央配送センターで梱包し、郵送または海外発送されます。



教会の印刷物を保管している倉庫で、職員が発送用に梱包した機関誌をチェックしています。

機関誌が届くまで

最終レイアウトが終わると、編集者は校正を行います。その後原稿は、電子メールなどで印刷センターに送られますが、送付時期は、英語版の『リアホナ』で発行予定日の5か月前、そのほかの言語の『リアホナ』は発行予定日の2か月前、『エンサイン』『ニューエラ』『フレンド』と『リアホナ』のニュース記事も約2か月前、『エンサイン』のニュース記事は約1か月前となっています。

印刷した機関誌は梱包し、合衆国以外の国には郵便などの様々な手段で配送します。合衆国内については、米国郵政公社〔United States Postal Service〕を通して郵送します。距離が遠いほど早めに発送し、ユタ州への発送は最後になります。機関誌はその月の第一

日曜日までに届くよう予定していますが、多少前後することもあります。

お手も届いた機関誌が、皆さんの霊的な成長に役立つよう願っています。体の健康やお金のやり繰りなど、現世での生活に関するテーマもありますが、どの記事も、皆さんを霊的に強めることを第一の目的としています。

記事に関するご感想をぜひお聞かせください（詳しくは右の欄をお読みください）。また、皆さんの霊的成長に役立つことで、わたしたちが改善できる点も提案としてお聞かせください。読者の皆さんにより良い記事をお送りするうえで学べるものがあれば、それは編集部にとっても、また皆さんにとっても益となるでしょう。■

記事の投稿

教会機関誌への投稿方法についてしばしば質問を受けます。どのようなテーマについても投稿できますが、たいいての場合、教義や聖文についての意味や意義を教える記事は中央幹部の書いたものを掲載します。

機関誌に掲載される可能性が最も大きいのは、皆さん自身が感じた霊的なことや経験についての投稿です。自分で知った事柄や経験したことを書くことで、真理には偉大な価値があることを、実話として伝えることができます。基本的に、投稿の内容は、多くの国や文化の下で暮らす読者が分かるものでなければならぬという点に注意してください。

実際に記事を書く前に、編集部がその内容についてどう考えるかを尋ねることもできます。そうすれば、皆さんが書こうとしているテーマが機関誌の編集企画と合っているかをお知らせできます。教会機関誌あての郵送先は以下のとおりです。

Liahona (または *Ensign*, *New Era*, *Friend*), 50 E. North Temple St., Rm. 2420, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メールアドレスは機関誌の英語名に「@ldschurch.org」を加えます。

例——『リアホナ』の場合は liahona@ldschurch.org

ドライバーを持った サマリヤ人

ハイディ・バートル

わたしは、マイアメイドのレッスンを教え、忙しく後片付けをしていました。夫のギャリーは、部屋の後ろで1歳の息子を抱いて立っていました。3歳の息子ザックはわたしたちの間をすり抜け、人であるホールに出ると、だれかの後を追って玄関の方に行ってしまいました。わたしは夫が、夫はわたしがザックと一緒にいるだろうと思っていたため、何分かたって初めてザックがいないことに気がつきました。

いなくなったと分かったそのとき、ホールの向こうにザックの姿が見えました。ところが様子が変わるので、頬は赤く、涙をこぼし、右手を握り締めていました。心配そうな表情のビショップに連れられてこちらへ歩いて来ます。わたしはたちまち罪悪感に駆られました。息子がけがをしたというのに、わたしはそこにいて助けてやらなかったのです。

ビショップは、突然泣きだしたザックの声を聞き、急いで助けに行ってくれました。大変なことになっているのは一目瞭然でしたが、どうしてよいかわかりません。ザックの指は重たいドアとその枠の間に挟まれていたのです。ドアを開けても閉めても指はさらに傷ついてしまいます。ドアが動く度に指はさらにきつく挟まれ、手も引っ張られてひどい痛みを引き起こすのでした。

ビショップとワードのある夫婦が必死になってザックの指を抜く方法を考

えていると、同じ集会所に集う別のワードの兄弟がこの状況を目にしました。兄弟はポケットからドライバーを取り出すと、ドアと枠の透き間に差し込みました。それから、ドライバーをてこにして透き間を広げ、ザックの指を抜いたのです。

安堵のため息が漏れる中、その兄弟はこう話しました。朝、集会に行く支度をしていると、ドライバーを教会に持って行くようにという変わった促しを受けたそうです。その印象があまりにも強く鮮明だったため、彼はドライバーをズボンのポケットに滑り込ませていたのです。

天から靈感を受けたこの親切な奉仕の行いにわたしは深く感動し、感謝でいっぱいになりました。天の御父はわたしの3歳の息子を見守り、善良な兄弟に促しを与えてくださっていたのです。■

その兄弟は、朝、集会に行く支度をしていると、ドライバーを教会に持って行くようにという変わった促しを受けたと話してくれました。

主の翼の陰を

ポール・B・ハッチ

少し前にアリゾナ州フェニックスで基礎飛行訓練を終えていたわたしはその日、数時間の単独飛行の後、初めて独りで飛行する許可を受けました。アリゾナ州のフェニックスからツーソンへ飛び、またフェニックスへ戻る2時間のルートです。

単独で地上3,000メートルを飛び、美しい雲や山、谷、砂漠を眺めることができるかと思うと期待で胸が高鳴りました。自分が未熟なことや、危険が待ち受けているかもしれないということについてはほとんど考えませんでした。

天気を確認し、飛行計画を提出してから、無線とコンパス、そして基本的な飛行機器をそろえました。飛行訓練のこの段階ではよくあるように、わたしはまだ先端機器を使う訓練を十分に受けていませんでした。しかし、操縦し

ようとしている飛行機は旧式だったため、計器飛行ができるような高性能の機器は備えていませんでした。

黄色の単発小型単葉機を離陸させたときは少し緊張しましたが、フェニックスからツーソンまでの飛行は上々でした。わたしは身に付けたばかりの飛行技術に興奮していました。

午後遅く、大得意になっていたわたしは、自信満々でツーソンからフェニックスへの残りわずか190キロの飛行を開始しました。しかし離陸直後、想定外の強い気流に見舞われ、高度の調整が困難になりました。すると突然、砂嵐に巻き込まれて視界も失ってしまいました。機体は左右に揺れ、わたしは完全に動転してしまいました。そして

カタリーナ山脈付近の危険な位置にいることに気づき、平常心を失ったわたしは恐怖におびえました。

パニックのさなか、自分の人生について考えました。わたしは婚約しており、翌月にはアリゾナ州メサ神殿で結婚する予定でした。専任宣教師として熱心に奉仕しました。いつも戒めを守り、聖霊の促しに耳を傾けようと努めてきました。神の導きを必要とするならそれは今でした。絶望しかけながらも、心の中で祈りました。すると、御霊が即座にささやきました。「無線とコンパス、計器盤を信頼して高度を下げなさい。」

わたしはすぐに100メートルほど降下しました。視界はまだそれほど良く

はありませんでしたが、かろうじて眼下に高速道路と鉄道の線路が見えました。計器を使い、地上の目標物を目で追いながら、何とかフェニックスの空港に着陸し、恐ろしい2時間の経験を終えました。

わたしは聖霊の促しと次の詩篇の約束にいつまでも感謝し続けることでしょう。「あなたの翼の陰をわたしの避け所とします。」(詩篇57:1) ■

御 ^み ^{たま} 霊が
即座に
ささやきました。
「無線とコンパス、
計器盤を信頼して
高度を下げなさい。」





少年のレプタ

ナタリー・ロス

宣教師だったとき、同僚と一緒にどこで伝道しようかと考えていると、一人の女性が家に入ろうとしているのが目に入りました。わたしたちのいたアルゼンチンのブエノスアイレス郊外はすでにシエスタ〔訳注—昼寝を含む長時間の昼休憩〕の時間になっていたのです。わたしたちは彼女が昼食の用意のために帰宅したに違いないと思いました。同僚が早速福音の原則を教え、わたしはそれが真実であることを証あかししました。ナルダはわたしたちの伝えたことを気に入り、翌週もう一度家に来るようにと言ってくれました。

ナルダの家に着くと、彼女の5人の子供たちがテーブルの周りに座ってわたしたちを待っていました。彼女にも、彼女の夫にも定職はなく、やっとのことで暮らしている様子を見たわたしたちの心は痛みました。質素な家には床も水道もなく、壁は板を簡単につなぎ合わせているだけでした。暖を取る唯一の

手段は一口の小さなガスコンロでした。

しかしどんなに貧しくても、彼らは神についてもっと知りたいという熱意にあふれていました。ナルダは聖書をととても大切に、研究していて、子供たちにも同様の価値観を持ってほしいと願っていました。特に、12歳のクリスチャンはわたしたちの話聞くのが大好きでした。家にモルモン書を置いて行くと、クリスチャンは熱心に最初の幾つかの書を読みました。ナルダの夫も興味を持っていましたが、恥ずかしがって寝室で聞いていました。

彼らの経済状況じゅうぎょうを考えると、断食献金だんじくけんぎんと什分の一について教えてもよいか悩みました。より信仰を必要とするこの原則は、彼らがイエス・キリストと回復について確固とした証を得てから教えたいと考えました。しかし、年上の子供たちはモルモン書を読んで教会に出席し始めており、断食について知りたいたちが思っていました。わたしたちは答えなければなりません。

クリスチャンが言いました。「姉妹、教会では皆断食について話しているよね。モルモン書にも書いてあるし。断食って何？」わたしたちは断食の大切さについて教え、証し、それからこの家族がこの戒めを受け入れてくれるよう心の中で祈りました。

後になってクリスチャンはこう証してくれました。「この間、お母さんがお菓子を買うお金をくれたんだ。店まで歩いて行く途中で、断食について姉妹から聞いたことを思い出してね。それで試してみたかったんだけど、ほくは20センターボシしか持っていなかったんだ。でもとにかく断食して、献金としてこのお金をささげようと決めたんだ。」

ナルダは、そんなに少ないお金を献金しても仕方ないと言いましたが、クリスチャンは引き下がらませんでした。クリスチャンは神のすべての戒めに従って生活し、できる限りのささげ物ささげものをしようと願ったのです。数週間後、

クリスチャンと二人のきょうだいはバプテスマを受けました。両親は、翌年教会に加わりました。

今、断食献金を納める余裕がないと思うときには、クリスチャンと彼の忠実さを思い出すようにしています。すると自分にはささげるものが十分すぎるほどあることがよく分かります。クリスチャンの献金はやもめのレプタを思い起こさせてくれます(マルコ12:42-44参照)。ささやかであったかもしれないが、クリス

チャンは心から神を愛し、従うことを望んでいたのです。ささげたのです。■

断 食献金を納める余裕がないと思うときには、クリスチャンと彼の忠実さを思い出すようにしています。すると自分にはささげるものが十分すぎるほどあることがよく分かるのです。

イエスはほんとうに アメリカ大陸を 訪れたのですか？

カルロス・レネ・ロメロ

1960年のこと、あるパーティーで会った若い男の人から、イエス・キリストが復活後にアメリカ大陸を訪れられたと聞きました。すごいことを聞いたと思い、もっと知りたくなりました。そこで、わたしは図書館で調べ、住んでいたエルサルバドルのサンミゲルにある様々な宗派の人たちに尋ね始めました。

ほぼ3年にわたって調べましたが、何も分かりませんでした。キリストがアメリカ大陸に来られたと聞いたことを様々な宗派の指導者に話すと、だまされたのだと言われました。調べても何の情報も得られなかったので、わたしはだんだん彼らが正しいと思うようになりました。

ある日、末日聖徒イエス・キリスト教会の二人の宣教師が家にやって来て、わたしの家族にとって大切なメッセージがあると言いました。わたしはすぐに以前の疑問を思い出して聞きました。「イエス・キリストがアメリカ大陸に来られたかどうか知っていますか？」

宣教師の一人が言いました。「わたしたちは、そのことが真実だと伝えています。」

その瞬間、頭も心も興奮したわたしは尋ねました。「どのようにして、それが真実だと分かるのですか？」

若者はバッグから本を取り出して言いました。「このモルモン書という本のおかげで、キリストがここに来られたことが分かるのです。」

しかし、宣教師の最初の話で聞いたことには困惑してしまいました。預言者ジョセフ・スミスが御父と御子にまみえたという話は信じられませんでした。それでも、モルモン書への興味をうしなうことはありませんでした。宣教師は、引き続き福音を教えてくださいました。

ある午後、長老たちがわたしに尋ねました。「わたしたちが教えていることが真実かどうか知るために祈ったことがありますか？」

わたしは、祈ってみたことはあるが答えを得たことはないと話しました。

「誠意をもって祈らなければいけません。」二人は言いました。

わたしは幾晩もモルモン書を読みました。イエス・キリストがニーファイ人に御姿を現されたことについて読み、そのことを信じていましたが、ジョセフ・スミスの示現をまだ受け入れられずにいました。心の中でひどく葛藤していました。

ある晩、わたしは独りでひざまずき、神に思いのすべてを打ち明けました。神がほんとうにジョセフ・スミスに御自身を現されたかについて、わたしは知る必要があると伝えました。もしほんとうなら、わたしはバプテスマを受けて教会に加わり、人生の最後まで神に仕えようと約束しました。

翌朝早くに目覚めたわたしは、聖霊を通して答えを受けました。思考がはっきりとして、心は平安に満たされていました。その瞬間を境に、ジョセフ・スミスが確かに神の預言者であり、モルモン書がイエス・キリストについてのもう一つの証であり、イエス・キリストが救い主、贖い主であられることについて、すべての疑いが晴れたのです。

わたしはキリストが復活後にアメリカ大陸に来られたことを知っています。わたしは、聖霊の力によってはっきりと教えられたこの偉大な知識を喜んでいきます。■



いと思うようになりました。いとこへのプレゼント用として購読を申し込みました。彼は『リアホナ』がとても気に入り、よく読んでいると話してくれました。彼が聖約を交わすこと、そして守ることの大切さを知るきっかけになればと思っています。

外国で教師をしている友人にも『リアホナ』をプレゼントしています。彼女も『リアホナ』が気に入って、毎月送ってほしいと言ってくれました。わたしはこのような方法で、いつか彼女が回復された福音を聞き、受け入れてくれるための備えをしています。

アメリカ合衆国テキサス州、
ベネロバ・B・ウッドワード

と顔がほころびます。舞台裏で働く人々に感謝します。『リアホナ』に感謝しています。

韓国、鄭淑智

正直なエライアス

どれほど『リアホナ』が好きかを伝えたくてお便りしました。息子のエライアス(当時2歳)は2007年3月号に掲載された「正直なモーガン」という物語がとても気に入り、わたしは何度も読み聞かせました。息子は物語の内容を自分の口で言えるようにまじりました。これからも、このような短い記事を載せてくれるとうれしく思います。

わたし自身も、ニュースや記事、役に立つ提案など、『リアホナ』を隔々まで愛読しています。霊的な糧

を得る機会に感謝しています。

ドイツ、ソニア・ゲルゲン



最良の選択

2005年12月、教会の会員である親戚がコロンビアに住むわたしと妻を訪ねて来ました。帰るとき、おじが二つのすばらしい贈り物をくれました。それは末日聖典合本と過去の『リアホナ』数冊でした。

2004年11月号を開くと、10月の総大会の説教が掲載されていました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の「教会の状態」とジェフリー・R・ホランド長老の「預言者、聖見者、啓示者」を読みました。この偉大な二人の証がきっかけとなり、わたしはモルモン書と聖書を読み始めたのです。

その結果、わたしたちの生涯で最もすばらしいことが起こりました。わたしたち夫婦は人生最良の決断をしました。バプテスマを受けて、末日聖徒イエスキリスト教会の会員になったのです。

コロンビア、エドガー・エンリムニョス・ボラス

福音を受け入れる備えとして

『リアホナ』に心から感謝しています。毎月じっくりと読むことで、わたしの証は大きく育っています。聖霊はわたしに、『リアホナ』に書かれていることが真実であるという確認を何度も与え、心を感謝の念で満たしてくださいました。

これらの霊的な経験の結果、記事の伝えるメッセージを人々に紹介した

総大会の御霊

『リアホナ』の大会号が届くと、載っている写真を一つ一つ眺めます。人々の表情や総大会の様々な場面を見るのがとても好きです。総大会の時期に世界中にあふれる御霊を感じさせてくれます。天の御父の子供たちは皆ほんとうに麗しいです。大会号を見ていると、いつも自然



お便りをお寄せください。

電子メールの場合――

liahona@ldschurch.org

郵送の場合――

Liahona, Comment

50 E. North Temple St., Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

頂いたお便りは、一部を割愛したり平明な文に手直ししたりすることがありますので、あらかじめご了承ください。



【サムエル・H・スミスの銅像】ディー・ジェイ・ボーデン作

ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの忠実な弟サムエル・H・スミスは、初期の教会の宣教師でした。1830年春から1833年12月まで、サムエルはバッグに詰めたモルモン書を配りながら、6,400キロを超える道のりを歩きました。2008年3月13日はサムエルの生誕200年の記念日です。



皆さんは『リアホナ』がどのようにできるのだろうかと思っ
たことはありますか。
皆さんが手にしている『リアホナ』を見て、
だれが、どのようにして作っているのかと考えることはありませんか。
教会機関誌が作られている現場をのぞいてみましょう。
「教会機関誌ができるまで」38ページ参照

